

令和元年
岩手県教育委員会定例会
8 月

岩 手 県 教 育 委 員 会

令和元年8月 岩手県教育委員会定例会議事日程

令和元年8月19日(月) 午後1時30分

第1 会期決定の件

第2 事務報告1 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果
について (学校教育課)

第3 議案第11号 県立学校の設置及び廃止並びに県立学校の学科の設置及
び廃止に関し議決を求めることについて (学校調整課)

閉会

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果について

岩手県教育委員会事務局学校教育課

I 調査概要

1 調査目的（実施要領から抜粋）

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日：平成 31 年 4 月 18 日（木）

3 調査対象

- (1) 小学校調査：小学校第 6 学年（義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部を含む）
- (2) 中学校調査：中学校第 3 学年（義務教育学校後期課程、特別支援学校中学部を含む）

4 調査事項

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

ア	・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
イ	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 今年度よりア（「知識」を問う問題）と、イ（「活用」を問う問題）が一体的に出題

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に 対する調査	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など
学校に 対する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

(3) 問題作成の基本的な考え方（国立教育政策研究所、一部抜粋）

各設問の正答率や誤答の状況から課題の有無を把握し、学習指導の改善・充実を図ることができるよう、特に、次の点に配慮して作成している。

- ① 学習指導要領の理念・目標・内容等に基づくものとし、小学校の調査問題については小学校第 5 学年までに、中学校の調査問題については中学校第 2 学年までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられるものを、各領域等からバランスよく出題すること。
- ② 教員による指導方法の改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等に役立てるという観点から、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題を出題すること。
- ③ 知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法の改善等に資するよう、知識と活用を一体的に問い、分析・活用の一層の充実を図ること。なお、調査問題の構成（問題数、分野・領域、出題形式等）については、教科の特性に応じて柔軟に設計するものとする。

5 本県公立学校における実施状況

	学校数	児童生徒数
小学校	314 校	9, 686 人
中学校	163 校 <small>後日実施の 3校含む</small>	9, 850 人

II 調査結果の概要

【教科調査】

- 県の平均正答率については、小学校国語、中学校国語において全国を上回ったが小学校算数、中学校数学、中学校英語は全国平均正答率を下回った。
- 教科については、例えば、目的に応じて自分の考えを書くこと（国語・英語）や実生活の様々な場面に活用すること（算数・数学）に課題が見られた。

【質問紙調査】

- いわて県民計画(2019～2028)における「いわて幸福関連指標」に関連して、
 - ・意欲をもって自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合
 小学校：82.1%（全国比+4.4 ㊦、前年度比+1.2 ㊦）
 中学校：78.4%（全国比+3.6 ㊦、前年度比+1.2 ㊦）
 - ・授業で自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合
 小学校：78.9%（全国比+4.8 ㊦、前年度比-1.8 ㊦）
 中学校：77.8%（全国比+5.0 ㊦、前年度比-2.2 ㊦、小6比+4.8 ㊦）
 - ・自分によいところがある（自己肯定感）と思っている児童生徒の割合
 小学校：80.5%（全国比-0.7 ㊦、前年比-1.8 ㊦、小5比+2.5 ㊦）
 中学校：72.6%（全国比-1.5 ㊦、前年度比-4.3 ㊦、小6比-1.5 ㊦）
- このほかの関連する結果として、
 - ・授業がよく分かる児童生徒の割合は、小学校国語、中学校国語、小学校算数は全国を上回る一方、中学校数学、英語は全国を下回った。
 - ・家庭学習について、
 - ✓児童生徒に対して具体的な学習方法を指導している学校の割合は小中学校とも全国を上回った。
 - ✓家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小中学校とも全国を上回った。
 - ✓家庭学習が1時間未満の児童生徒の割合は、小学校では全国を下回り、中学校では全国を上回る傾向が継続している。
 - ・昨年度の調査結果を保護者や地域に公表・説明している学校の割合は、小中学校とも全国を下回る傾向が継続している。

1 教科に関する調査

(1) 小学校調査について

- ・国語では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことや、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることなどはできている。
- ・算数では、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること、示された除法の式の意味を理解することなどに課題が見られる。
- ・国語、算数とも全ての設問において全国の無解答率を上回ることがなく、最後まで諦めずに解答しようと努力する児童が多い。

□成果・課題が見られた問題の例（詳細は別冊資料を参照）

	教科	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	平均正答率(%)	
					岩手県	全国
成果等	国語	2-1(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□に、疑問に思ったことに対する答えになるように考えて書く。	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく。	80.1	75.9
	算数	2(2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる。	81.8	78.6
課題等	国語	1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「調査の内容と結果」で分かったことをまとめて書く。 ※全国平均正答率を上回っているが、正答率が顕著に低いため課題とした。	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。	33.6	28.8
	算数	3(4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ。	示された除法の式の意味を理解している。	41.7	47.0

(2) 中学校調査について

- ・ 国語では、文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつことなどはできている。
- ・ 数学では、簡単な連立二元一次方程式を解くことや、反比例の表から x と y の関係を式で表すことなどに課題が見られる。
- ・ 英語では、与えられた英語を適切な形に変えたり不足している語を補ったりなどして会話が成り立つように英文を書くことや、与えられた情報に基づいて英文で説明することなどに課題が見られる。

□ 成果・課題が見られた問題の例（詳細は別冊資料を参照）

	教科	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
					岩手県	全国
成果等	国語	1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する。	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。	67.2	63.9
	数学	8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	41.2	40.8
	英語	1(4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する。	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。	64.2	61.8
課題等	国語	2三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く。 ※全国平均正答率を上回っているが、無解答率が高かったため課題とした。	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ。	61.6	60.4
	数学	2	連立二元一次方程式を解く。	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。	60.3	70.1
	英語	9(3) ①②③	与えられた情報に基づいて、説明する英文を書く。	与えられた情報に基づいて、三人称単数現在時制の肯定文または一般動詞の三人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる。	①39.6 ②20.7 ③20.9	①53.5 ②32.9 ③37.4

2 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査（下記以外の詳細は別冊資料を参照）

※数値は「よく行った」「どちらかといえば行った」等、肯定的な回答の割合 (%)

() 内の数値は、「よく行った」等、積極的な肯定回答の割合 (%)

※表中の「児童生徒」は児童生徒質問紙調査、「学校」は学校質問紙調査を示す

(1) 意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合

いわて幸福関連指標

質問事項	小学校		中学校		
	岩手県	全国比	岩手県	全国比	
児童生徒	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	82.1 (36.5)	+4.4 (+3.5)	78.4 (31.0)	+3.6 (+1.7)
学校	児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う	89.5 (18.5)	+4.0 (+1.6)	83.6 (11.3)	+1.0 (-3.2)

(2) 授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合 いわて幸福関連指標

質問事項		小学校		中学校	
		岩手県	全国比	岩手県	全国比
児童生徒	学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	78.9 (35.9)	+4.8 (+5.6)	77.8 (33.7)	+5.0 (+5.4)

(3) 自己肯定感をもつ児童生徒の割合 いわて幸福関連指標

質問事項		小学校		中学校	
		岩手県	全国比	岩手県	全国比
児童生徒	自分には、よいところがあると思う	80.5 (36.8)	-0.7 (-2.0)	72.6 (26.9)	-1.5 (-2.1)
学校	学校生活の中で、児童〔生徒〕一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った	99.1 (58.0)	+0.3 (-1.8)	99.4 (53.5)	+0.8 (-1.6)

(4) 学校の授業がよく分かる児童生徒の割合

質問事項		小学校		中学校	
		岩手県	全国比	岩手県	全国比
児童生徒	国語の授業はよく分かる	87.6 (42.3)	+2.7 (+1.1)	81.3 (30.0)	+3.7 (+1.6)
	算数〔数学〕の授業はよく分かる	84.4 (48.8)	+0.9 (-0.5)	71.1 (32.7)	-2.8 (-2.1)
	英語の授業はよく分かる	—	—	63.9 (26.3)	-2.1 (-3.2)

(5) 児童生徒に対して具体的な学習方法を指導している学校の割合

質問事項		小学校		中学校	
		岩手県	全国比	岩手県	全国比
学校	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしていますか（教科共通）	99.4 (63.1)	+3.9 (+13.2)	95.6 (49.7)	+3.3 (+10.8)

(6) 家庭学習について自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合

質問事項		小学校		中学校	
		岩手県	全国比	岩手県	全国比
児童生徒	家で自分で計画を立てて勉強をしている	79.5 (40.3)	+8.0 (+7.2)	51.7 (15.7)	+1.3 (+0.8)

(7) 家庭学習が1時間未満の児童生徒の割合

質問事項		小学校		中学校	
		岩手県	全国比	岩手県	全国比
児童生徒	学校の授業時間以外に、普段(月から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)「1時間未満の割合」	22.9	-11.1	35.9	+5.9

(8) 全国学力・学習状況調査の結果を保護者や地域に公表・説明している学校の割合

質問事項		小学校		中学校	
		岩手県	全国比	岩手県	全国比
学校	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、保護者や地域に人たちに対して公表や説明を行った(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	84.7 (22.6)	-6.5 (-14.3)	76.1 (18.9)	-11.4 (-14.6)

3 質問紙調査結果の分析

(1) 同一集団での経年変化「授業はよく分かりますか」

- 授業が分かると回答した児童生徒の肯定回答の割合は、中学校数学、英語について全国を下回った。(p.4 2 (4) 参照)
- 昨年度と比較すると、小学校算数では積極的回答の割合、中学校数学では肯定回答の割合が増加している。
- 県学習定着度状況調査(小5、中2)の結果を用いた同一集団の経年比較では、英語については肯定回答の割合が5.1ポイント、算数は2.6ポイント、数学は0.9ポイント減少している。

※ グラフは左側が小学校、右側が中学校

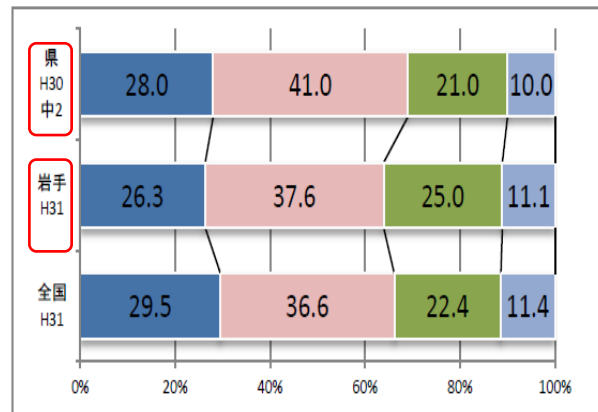
※ は同一集団の経年比較を表す

例 県
H30
小5/中2 = 平成30年度 小5/中2 県学習定着度状況調査の結果

例 岩手
H31 = 平成31年度 全国学力・学習状況調査における本県の結果

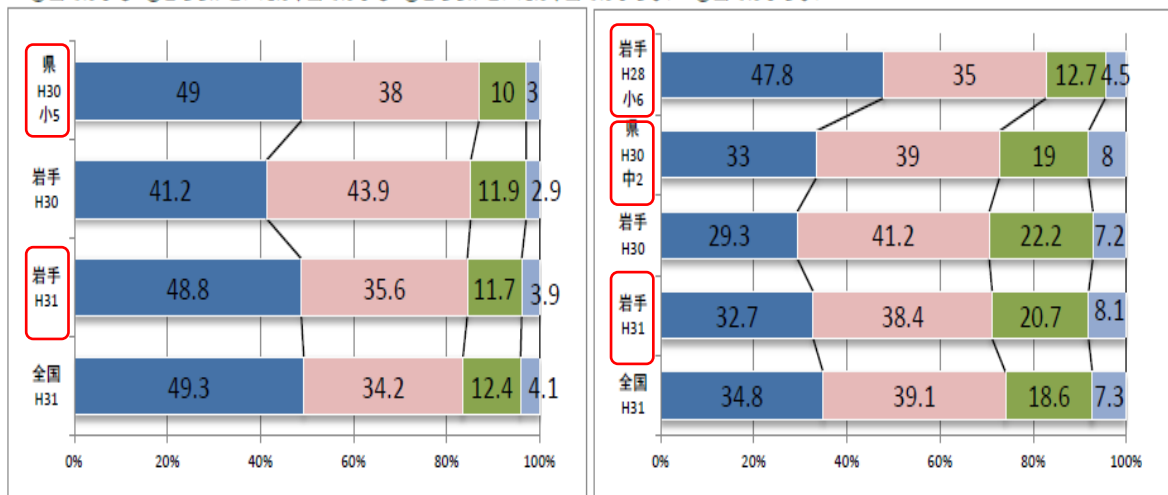
英語の授業はよく分かりますか。(中【56】)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



算数・数学の授業はよく分かりますか。(小【48】 中【51】)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



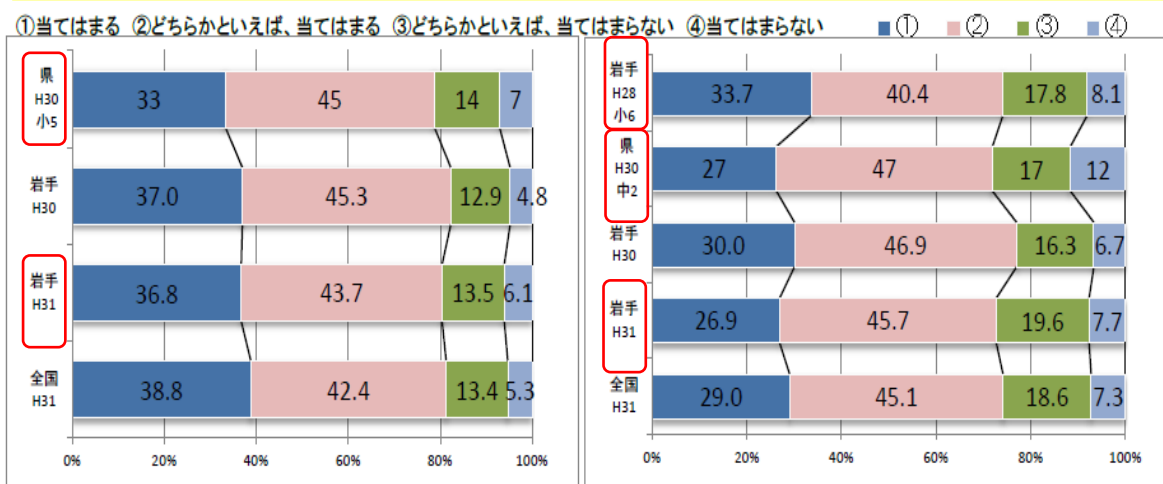
(2) 同一集団での経年変化及び平均正答率とのクロス集計

「自己肯定感をもつ児童生徒の割合」

いわて幸福関連指標

- 「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を下回り、特に積極的肯定回答の割合は、昨年度から小学校で0.2ポイント、中学校で3.1ポイント減少している。
- 一方、県学習定着度状況調査（小5、中2）の結果を用いた同一集団の経年比較では、小学校の肯定回答の割合が2.5ポイント増加、中学校においては横ばいである。
- 教科調査とのクロス集計の結果、「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童生徒や、「学校生活の中で、児童〔生徒〕一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った」学校ほど、教科の正答率が高い傾向が見られる。
- 今後とも、授業をはじめとした日々の教育活動全体を通じて、児童生徒の自己肯定感を育むことが重要である。

自分には、よいところがあると思いますか。(小中【5】)



○児童生徒質問紙とのクロス集計 () は全国
「自分にはよいところがあると思う」

小学6年生			平均正答率		中学3年生			平均正答率		
回答状況	児童数の割合%	国語	算数	回答状況と正答率が相関	回答状況	生徒数の割合%	国語	数学	英語	
1 当てはまる	36.8 (38.9)	69.9 (67.0)	69.0 (69.3)		1 当てはまる	26.9 (29.1)	74.5 (74.2)	58.2 (62.6)	53.7 (58.5)	
2 どちらかといえば、あてはまる	43.6 (42.4)	67.8 (64.2)	66.0 (66.8)		2 どちらかといえば、あてはまる	45.7 (45.0)	75.1 (74.3)	57.1 (61.5)	52.0 (57.2)	
3 どちらかといえば当てはまらない	13.5 (13.4)	61.3 (58.5)	61.4 (62.4)		3 どちらかといえば当てはまらない	19.6 (18.6)	71.0 (71.3)	51.3 (57.1)	49.0 (53.9)	
4 当てはまらない	6.1 (5.3)	57.8 (53.9)	57.2 (58.3)		4 当てはまらない	7.7 (7.3)	68.7 (67.9)	48.7 (53.0)	47.9 (51.3)	

○学校質問紙とのクロス集計 () は全国
「学校生活の中で、児童〔生徒〕一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った」

小学6年生			平均正答率		中学3年生			平均正答率		
回答状況	学校数の割合%	国語	算数	回答状況と正答率が相関	回答状況	学校数の割合%	国語	数学	英語	
1 よく行った	58.0 (59.9)	66.7 (64.6)	65.8 (66.7)		1 よく行った	53.5 (55.2)	73.7 (73.2)	55.9 (59.9)	51.7 (55.6)	
2 どちらかといえば、行った	41.1 (38.8)	66.0 (63.0)	64.7 (65.6)		2 どちらかといえば、行った	45.9 (43.3)	73.6 (72.1)	55.6 (58.8)	50.7 (55.0)	
3 あまり行っていない	1.0 (1.1)	57.5 (59.7)	57.3 (63.8)		3 あまり行っていない	0.6 (1.4)	70.0 (70.7)	47.8 (57.7)	47.6 (55.1)	
4 全く行っていない	0.0 (0.0)	0.0 (55.0)	0.0 (62.8)		4 全く行っていない	0.0 (0.0)	0.0 (73.4)	0.0 (56.0)	0.0 (54.3)	

Ⅲ 県教育委員会の取組

1 学力向上に向けた本年度の取組の重点

県教育委員会では、「学びの保障を実現するための重点目標と具体的取組」を以下のとおり示している。

<重点目標> 「確かな学び、豊かな学び」を目指した授業改善

「主体的・対話的で深い学び」を通して児童生徒の確かな学力を育むために、児童生徒の実態に立脚し、客観的なデータを活用しながら、何につまずいているのか、そのつまずきはなぜ生じているのかについて、解決の手立てを学校内で検討し、全教員がつまずきに対応したきめ細かな指導を意識した授業改善に取り組む。

<具体的取組>

ア 諸調査結果及び『『確かな学び、豊かな学び』実現プラン』を活用した、各学校における検証改善のサイクル（CAPDサイクル）の一層の強化

- ① 諸調査問題の意図等を全教員で確認すること
- ② 諸調査結果を活用した指導改善の取組を推進する視点から、教育課程を随時見直すこと
- ③ 中学校新入生学習状況調査や高校基礎力確認調査の出身学校別データ等の有効活用を図るなど、同一中学校区の小・中学校の円滑な接続により取組を推進・検証すること

イ 授業改善の組織的な取組の更なる推進

- ① 校内研究会等を通して、「いわての授業づくり3つの視点」を踏まえた授業の在り方について、学年・教科の枠を越えて共有すること
- ② 諸調査結果から見えた児童生徒のつまずきを解消する視点から、授業研究に組織的に取り組むなど、校内研の活性化を図ること

ウ 保護者・地域との連携の一層の推進

- ① 諸調査の分析及びその結果を受けた学校としての学力向上等の取組について、理解や協力を得るために保護者・地域と共有すること
- ② 児童生徒の自立的な学習を促すための授業と連動した家庭学習の取組について、その趣旨を保護者と共有し、取組の充実を図ること

2 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果を踏まえたこれからの取組

一人一人のつまずきに対応した指導の充実のため、児童生徒の学びの視点に立った本調査結果の活用促進を図るとともに、思考力・判断力・表現力等、確かな学力を身に付け、さらに伸ばすことができるように学校の組織的な授業改善等への支援を強化していく。
具体的には、以下の取組を進めていく。

【取組内容】

- 授業改善に関する方向性の共有と、各学校及び教員への指導・支援の充実
 - ・「いわての授業づくり3つの視点」の改訂
 - ・各学校の改善計画の活用や県の作成した指導資料の活用の促進
全般：「確かな学び、豊かな学び」実現プラン
数学：「いわて五ツ星の授業づくり」や家庭学習用「中学校GアップシートEX」等
英語：授業改善方策シート、言語活動の充実を推進するリーフレット、英検I B A等の活用による生徒の動機付け、外国語教育における小中連携の強化等
- 全国学力・学習状況調査や県の実施する諸調査の意義の共通理解とその効果的な活用の促進
 - ・調査問題そのものへの着目と、誤答分析の充実
 - ・県の諸調査について、本県の課題により焦点化した内容への改善
- 学校と家庭、地域との連携強化による家庭学習の量的質的な改善

【取組方法】

- 指導主事による学校訪問指導の充実
- 各種研修や会議、総合教育センター発表会等を通じた基本的な方針の確認や先進的な取組等の共有
- 市町村教育委員会との連携による取組の一層の推進

【参考】

「新たに注視する5項目」

- ① 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしているか。
- ② （振り返る活動について）児童生徒自身が、学習の成果（又は課題）を実感できる振り返りとなっているか。
- ③ 児童生徒の間違いを認める雰囲気を作り、その中で授業を進めているか。
- ④ 諸調査の自校の分析結果から見えた児童生徒のつまずきに対応した授業改善を行っているか。
- ⑤ 授業内容の理解を促進する家庭学習の課題（宿題）を、計画的に出しているか。

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査別冊資料

岩手県教育委員会事務局学校教育課

1 平成31年度調査の平均正答率【公立】

※()は昨年度参考値
平成30年度までは、A問題:主として「知識」に関する問題、
B問題:主として「活用」に関する問題に分けて実施

小学校6年生	岩手県		全国		全国平均との差	
国語	67%	(国語A 74%)	64%	(国語A 71%)	+3	+0.4/14問
		(国語B 57%)		(国語B 55%)		
算数	66%	(算数A 63%)	67%	(算数A 64%)	-1	-0.1/14問
		(算数B 51%)		(算数B 52%)		

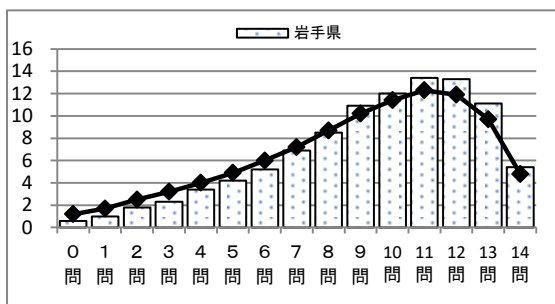
(ポイント)

中学校3年生	岩手県		全国		全国平均との差	
国語	74%	(国語A 76%)	73%	(国語A 76%)	+1	+0.1/10問
		(国語B 61%)		(国語B 61%)		
数学	56%	(数学A 62%)	60%	(数学A 66%)	-4	-0.6/16問
		(数学B 43%)		(数学B 47%)		
英語	52%		56%		-4	-0.8/21問

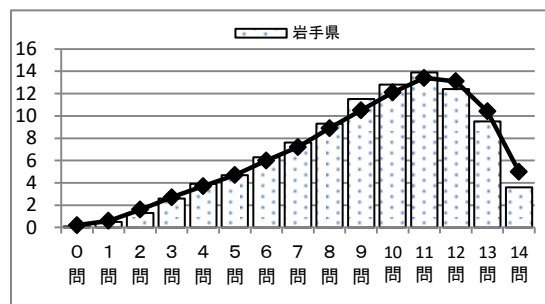
(ポイント)

2 各教科の正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

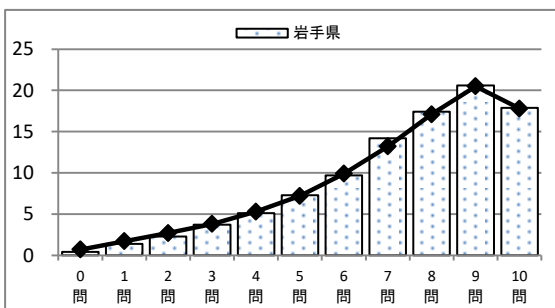
<小学校国語>



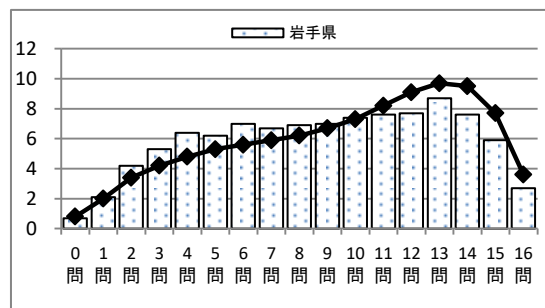
<小学校算数>



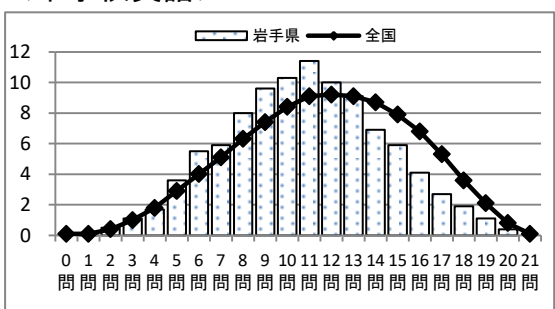
<中学校国語>



<中学校数学>



<中学校英語>



＜全体的な考察＞

本県の平均正答率は67%であり、全国平均正答率64%を上回り、概ね良好である。領域別にみると、特に「話すこと・聞くこと」において、全国平均正答率を4.3ポイント上回っているのをはじめとして、全ての領域において全国平均正答率を上回っている。小問別においても、全国平均正答率を14問中12問上回っている。無解答率についても、全ての小問において全国の無解答率を下回った。

「読むこと」においては、特に、昨年度に改善が見られた「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」ことについて、「疑問に思ったことの答え」として適切な内容選択する問題が81.4%（全国80.7%）、「保存する方法を考えなければならない理由」を条件に合わせて書く問題が80.1%（全国75.9%）と、さらに改善が見られている。また、「話すこと・聞くこと」においては、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」問題が77.8%（全国68.2%）と全国と比較して大きな成果が見られている。これは、指導事項に基づいた言語活動の設定を通じた授業改善の充実が図られてきたことにより、目的に応じて本や文章を選び、必要な情報を的確に押さえ読み力や話し手の意図を捉えながら聞く力が身に付いてきたものと捉える。

一方、昨年度から顕著に課題が見られた「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことについては、33.6%（全国28.8%）と、やや改善は見られてきているものの依然として課題が見られる。

＜成果や伸びが見られた問題＞

2-1(2) 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む

R 1	平均正答率	岩手県	80.1%	全国	75.9%
H30	平均正答率	岩手県	60.4%	全国	52.3%

【資料】食べ物の保存について書かれた本のページ

食べ物を保存する

◆ 食べ物は生命の源
生き物は、食べ物がなければ生きていくことができません。食べ物を安定して確保することは、生きる上で欠かせないことです。
例えば、リスは秋になるとドングリを土にうめ、食料をたくわえます。クマはたくさんのお肉を食べ、体に栄養をたくわえて冬眠に入ります。動物たちは、このようにして生きぬいているのです。
わたしたち人間は、食べ物を保存する技術がなかったころは、いつでもおなかを満たすことができるというわけではありませんでした。季節や天候などにより、農作物や肉、魚などが手に入らないことがあったからです。また、運ぶ大量の食べ物が手に入っても、そのままではおくと、くさって食べられなくなってしまふこともありました。そのため、人々は昔から様々な方法で食べ物の保存を試みてきました。失敗をくり返しながらよりよい保存方法を獲得し、次の世代へつないできたのです。

◆ 保存のふしぎ
食べ物がくさる主な原因は、食べ物をくさらせる細菌が増えることです。その細菌は食べ物の水分を利用して増えます。そのため、水分が少なくなれば細菌は増えにくくなり、食べ物はくさりにくくなります。
では、水分を少なくするにはどのようにしたらよいのでしょうか。例えば、塩や砂糖を使うという方法があります。塩や砂糖には水分を吸い出す力があるため、塩や砂糖を使ってつけると水分を少なくすることができます。また、かんそうさせるという方法もあります。日光や風に当てて干すことで、水分を蒸発させることができます。
これらの方法を使った保存食には次のようなものがあります。

塩を使う

- ・ 山菜の塩づけ
- ・ 豚肉の塩づけ
- ・ 魚の塩づけ

砂糖を使う

- ・ 果物の砂糖づけ
- ・ ジャム

かんそうさせる

- ・ 切り干し大根
- ・ かんぴょう
- ・ こんぶ

食べ物の保存について

春休みに、祖母から梅干しをもらったが、それが十年前に作られたものだぞと知りおどろいた。十年もたつのになぜ食べられるのかと聞くも、塩づけしたり干したりしているからだというのだ。昔の人はいくつかして食べ物を保存してきたのだと、祖母は教えてくれた。

疑問に思ったこと

- ① なぜ食べ物を塩づけしたり干したりすると保存できるのか。
- ② なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか。

調べて分かったこと

① 食べ物を塩づけしたり干したりすると保存できる理由は、昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったから。

② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、

宮原さん

「フートの一部」

「フートの一部」に入る内容で、おどの条件に合わせて書きましょう。

② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、

理由は、

イ

「疑問に思ったこと」の②の答えになるように考えて書くこと。

○ 「資料」から言葉や文を取り上げて書くこと。

○ 四十文字以上、七十文字以内にならなくて書くこと。

※左の縦線は下書き用なので、使っても使わなくても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※右の横線は下書き用なので、使っても使わなくても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。

70字

40字

○ 分析と今後の学習指導に当たって

調査したことについて報告する文章を書く場合には、目的を明らかにして、調査の結果に基づいて自分の考えを明確にして書く必要がある。この問題では、公衆電話について調べ、報告する文章を書く場面を取り上げている。高橋さんは、「公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったのかどうか」に対する自分の考えを伝えるために、様々な調査から図表やグラフにまとめ、自分の考えをまとめている。調査結果から自分の考えとその理由を明確にして書くことができるかを問う問題である。ここでは、調査内容の「(1) 公衆電話を使う必要のある場面」と「(2) 公衆電話の使い方と特徴」のそれぞれの結果から、公衆電話が必要と考える理由を結び付けて書く必要がある。誤答の傾向を見てみると、下記のとおり二つの傾向に分かれている。

- ① 二つの理由を取り上げているが、七十字以内に書きまとめられなかったり報告する文にふさわしくない表現になったりしてしまったもの
- ② (1)と(2)の片方のみしか取り上げられなかったもの

①の児童については、一定の条件（様式等）に合わせて考えをまとめる学習経験が不足しているものと捉えられる。こういった課題への指導の方策としては、例えば、調べたことを報告する文章を書く言語活動を通して、表現様式に応じた字数で書かせたり、誰に伝えるのかを明確にして書きぶりを考えさせたりするなど、目的に応じて一定の条件の下で書かせるなどの指導の工夫が考えられる。

②の児童については、調査結果と公衆電話が必要な複数の理由とを結び付けて考える力が十分ではないと捉えられる。こういった課題への指導の方策としては、「書くこと」の指導の一連のプロセスの中で、調査結果を整理して、複数の調査結果と自分の考えを関連付ける学習を充実させる必要がある。例えば、「分かったこと」（調査結果）を基に、そこから「考えたこと」が調査結果のどの事実と結び付くのかを付箋紙等で視覚的に整理させるなどの工夫が考えられる。

＜全体的な考察＞

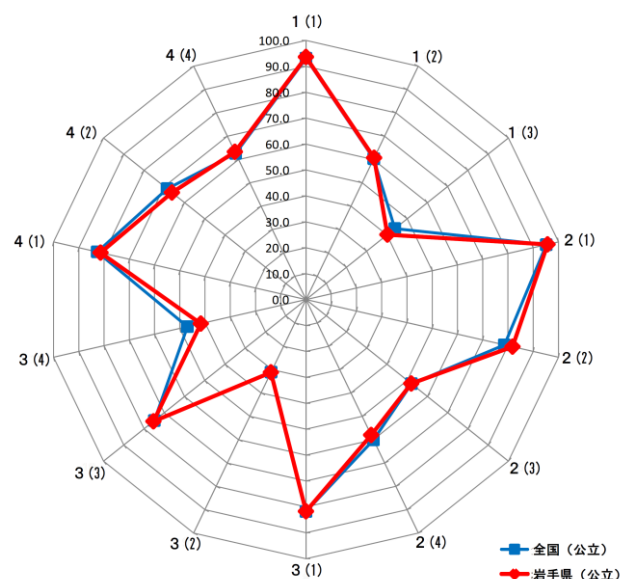
県の平均正答率は66%で、昨年度に引き続き、全国平均正答率67%を若干下回った。

右のグラフのとおり、小問ごとの正答率は、ほぼ全国と同様の傾向になっている。しかし、**1**(3)や**3**(4)、**4**(2)などの小問で差が開いたことが全体の平均正答率に影響したものと考えられる。また、これまで課題であった加法と乗法の混合した計算は、**2**(4)のような具体的な場面を想起して四則の混合した式を計算する文脈で、平均正答率がより低くなった。

県の無解答率は、算数のほぼ全ての小問で全国より低くなっており、主体的に問題解決に取り組む粘り強く考えようとする児童が多いと考えられる。

誤答や無解答については、全国平均とほぼ同様の傾向が見られることから、報告書や授業アイデア例などを参考に、積極的に指導改善に取り組むことが大切である。例えば、**1**(3)や**3**(2)のような「事実」を記述する問題で、説明不十分で正答の条件を満たしていないために、誤答扱いになったものが多い。そこで、学習指導に当たっては、例えば、児童の説明が適切かどうかを振り返って検討し、説明のブラッシュアップを図るような学習活動を重視し、適切に取り入れることが考えられる。

その上で、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、様々な生活や学習で活用できる知識及び技能の育成に向けて、選択肢を示して考えさせるなど、意味理解について深い学びの実現を図り、そのことを通して技能についても確実に習得できるようにすることが大切である。さらに、課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、引き続き指導改善に努める必要がある。



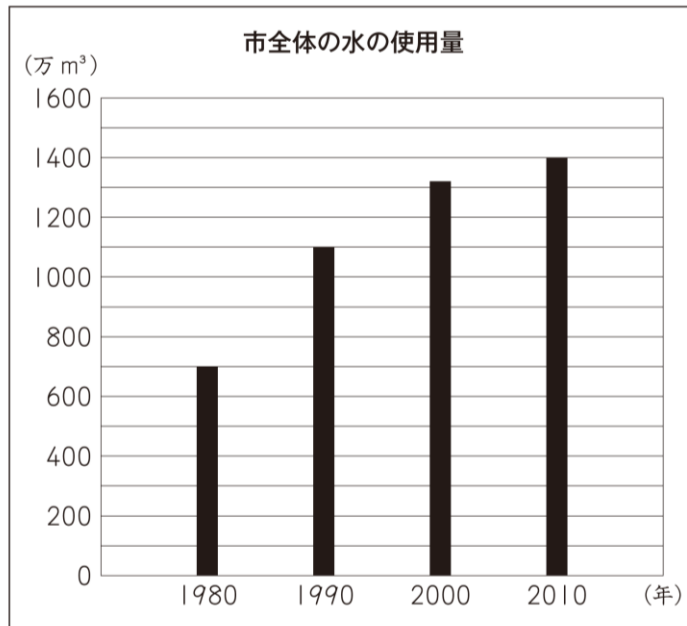
<成果や伸びが見られた問題>

算数2(2) 資料の特徴や傾向を読み取り判断すること(水の使用量)

2

かいとさんたちは、水を大切に使っているのかどうかを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、水をどのくらい使っているのかを調べています。かいとさんは、**グラフ1**を見つけました。

グラフ1



(2) **グラフ1**の、**2010年**の市全体の水の使用量は、**1980年**の市全体の水の使用量の約何倍ですか。

答えを書きましょう。

R1 平均正答率 岩手県 81.8% 全国 78.6%

○ 分析と今後の学習指導に当たって

本問題は、棒グラフから、2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることができるかどうかをみるものである。

県の平均正答率は81.8%で、全国の平均正答率を3.2ポイント上回った。これは、小学校算数科の学習指導に当たって、資料の特徴や傾向を読み取る際に、目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりすることで、資料の中の数量の大きさの関係を読み取る活動を大切にしてきたことが、一つの成果につながっているものと考えられる。

<特徴的な課題となった問題>

○ これまでの課題が継続している問題

算数 $\boxed{2}$ (4) 資料の特徴や傾向を読み取り判断すること（加法と乗法の混合した整数と小数の計算）

(4) さらに、かいとさんは、自分が家で水をどのくらい使っているのかが気になり、洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、下の式を考えました。

【かいとさんが考えた式】

$6 + 0.5 \times 2 = \boxed{\text{ア}}$

【かいとさんが考えた式】の、アに入る数を書きましょう。

<分析と今後の学習指導に当たって>

本問題は、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかどうかをみるものである。

平成19年度算数A $\boxed{1}$ (7)と平成29年度算数A $\boxed{2}$ (3)において同様の趣旨で出題されており、その結果と比較すると、それぞれ15.6ポイント、9.2ポイント低くなっている。

【誤答例】のように、式の左から順に計算したと考

えられる「13」の反応率（解答類型2）が、岩手県24.8%（全

【誤答例】

$$6 + 0.5 \times 2$$

$$= 6.5 \times 2$$

$$= 13$$

国22.6%)で、平成29年度算数A $\boxed{2}$ (3)の岩手県18.5%（全国17.3%）より高くなっている。これらの中には、本問題のように、具体的な場面を想起して四則の混合した式を計算する文脈になると誤ってしまう児童がいると考えられる。

学習指導に当たっては、具体的な場面と関連付けながら、例えば、「洗顔は、

6L×1回＝6Lで、歯みがきは、0.5L×2回＝1Lになる。」ことを確認し、「13L」が誤りであることを、児童が自ら気付けるようにすることが考えられる。

なお、本調査の対象児童については、昨年度実施した平成30年度岩手県学習定着度状況調査算数

$\boxed{1}$ において、加法と乗法、除法の混合した計算について出題している。

県の平均正答率は66%で、このとき、式の左から順に計算したと考えられる「① 10+40」の反応率は10%であった。

1 10+40÷5×4の計算をするとき、いちばん最初に計算する式はどれですか。答えは①～④の中から1つ選び、その番号を書きましょう。

- ① 10+40
- ② 40÷5
- ③ 5×4
- ④ 10+40, 40÷5, 5×4のどれからでもよい。 (正答率66%)

<特徴的な課題となった問題>

○ 全国平均正答率との差がもっとも大きかった問題

算数③(4) 計算の仕方の解釈と発展的な考察（除法の式の意味）

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

リボンを 0.6 m 買ったときの代金が 180 円でした。

$\frac{180 \text{ 円}}{0.6 \text{ m}}$

このリボン 1 m 分の代金は、いくらですか。

1 m 分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$$\begin{array}{r} 180 \div 0.6 = \square \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 1800 \div 6 = 300 \end{array}$$

変わらない

だから、 $180 \div 0.6$ の答えの \square は、300 です。

$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の **あ** から **え** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

あ 0.6 m 分の代金

い 1 m 分の代金

う 6 m 分の代金

え 10 m 分の代金

R1 平均正答率 岩手県 41.7% 全国 47.0%

<分析と今後の学習指導に当たって>

本問題は、示された除法の式の意味を理解しているかどうかをみるものである。

県の平均正答率は 41.7% で、全国の平均正答率を 5.3 ポイント下回った。

【誤答例】
う 6 m 分の代金

【誤答例】のように、被除数と除数を 10 倍した「 $1800 \div 6$ 」の式の除数「6」に着目したと考えられる「う」の反応率（解答類型 3）が、岩手県 24.9%（全国 22.2%）となっている。これらの中には、除法の計算のしかたとして、「被除数と除数に同じ数をかけても、商は変わらない。」という性質は理解していても、「 $180 \div 0.6$ 」や「 $1800 \div 6$ 」が何を求める式といえるのかを捉えられない児童がいると考えられる。

学習指導に当たっては、図や数直線などを用いて数量の関係を捉え、答えが「 $180 \div 0.6$ 」の式で求められるこ

とを確認し、実際に工夫して計算した上で、被除数と除数を 10 倍した「 $1800 \div 6$ 」の式について振り返って考え、「6 m で 1800 円のリボンを考え、そのリボン 1 m 分の代金を求める式である」のように、事象に即して解釈する活動を取り入れることが考えられる。

<特徴的な課題となった問題>

○「事実」を記述する問題

算数1(3) 図形の構成と筋道を立てた考察 (求め方の説明)

(3) ゆうたさんたちは、2つの合同な台形で作られた図1の形の面積を求めようとしています。

図1の形の面積は、16 cm²であることがわかりました。

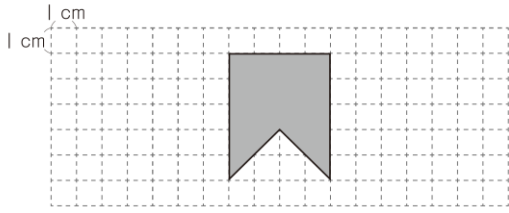


図1

ゆうたさんは、図1の形の面積を、次のように求めました。

【ゆうたさんの求め方】

$$(3 + 5) \times 2 \div 2 = 8$$

$$8 \times 2 = 16 \quad \text{答え } 16 \text{ cm}^2$$

ちひろ

わたしは、ほかの求め方を考えました。

【ちひろさんの求め方】

$$5 \times 4 = 20$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$20 - 4 = 16 \quad \text{答え } 16 \text{ cm}^2$$

【ちひろさんの求め方】の中の「20 - 4」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図1を使って考えてもかまいません。

ゆうた

図1の形を、下の図のように、合同な台形2つとみました。

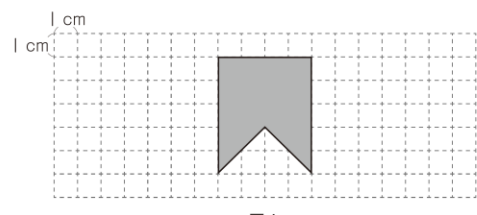


図1

まさるさんは、【ゆうたさんの求め方】の中の「8 × 2」が、どのようなことを表しているのかを、下のように説明しました。

まさる

8は、1つの台形の面積を表しています。
8 × 2は、1つの台形の面積を2倍していることを表しています。

R1 平均正答率 岩手県 40.2% 全国 43.9%

<分析と今後の学習指導に当たって>

本問題は、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみるものである。

県の平均正答率は40.2%で、全国の平均正答率を3.7ポイント下回った。

【誤答例】のように、「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかは記述できているが、「20 - 4」の減法がどのようなことを表しているのか記述していない解答の反応率(解答類型3)が、岩手県17.6%(全国16.6%)となっている。これらの中には、図形の面積の求め方は理解していても、減法について記述する必要があると判断できなかった児童がいると考えられる。

【誤答例】

- ・「20」は長方形の面積で、「4」は三角形の面積を表しています。

学習指導に当たっては、例えば、児童が考えた説明や記述が適切かどうか振り返って検討し、その上で、説明や記述のブラッシュアップを図る活動を適切に取り入れることが考えられる。

○ 分析と今後の学習指導に当たって

目的や意図に応じて、新聞や雑誌など様々な媒体に触れ、必要な情報を取り出したり、多様な情報を基に既存の知識や経験と結び付けて自分の考えを広げたりすることは、急速に情報化が進展する社会の中では重要となってくる。この問題では、日本の「弁当」に関する記事と中学生が創作した短歌などが掲載された、全国中学生新聞を取り上げている。日本の「弁当」に関する記事の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりすることができるかどうかを問う問題である。ここでは、「弁当」、「漫画」など、本シリーズで取り上げる内容を最初に示すことで、読者に今後の掲載の見通しをもたせようとしている書き手の意図を捉える必要がある。

同様の力を問う問題を経年で比較すると伸びが見られてきているものの、32.8%の生徒がつまづきを示しており、今後も継続して指導の改善が求められる。誤答の傾向を見てみると、選択肢の1と解答している生徒が誤答全体の19.7%を占めている。日本の文化の例が複数示されていることは捉えているが、そのことにどのような効果があるかまでは理解できていないものと考えられる。このことから、新聞や雑誌などの様々な媒体を取り上げた言語活動を通して、その表現様式に応じた構成や展開、表現の仕方に着目して、書き手の目的や意図、その効果を考える学習を充実させる必要がある。例えば、「考えを伝えるためにどのような工夫をしているか」「どうしてそのような工夫をしたのか」「その効果は」といった観点を明確に設定して読むなどの指導の工夫が考えられる。

<特徴的な課題となった問題>

○ 引き続き課題であり、無解答率が高かった問題

2三 話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ

R 1	平均正答率	岩手県	61.6%	全国	60.4%
	無解答率	岩手県	8.9%	全国	8.9%
H30	平均正答率	岩手県	63.9%	全国	65.8%
	無解答率	岩手県	13.3%	全国	14.9%

(※話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す)

場面①

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいつたり、段差に気付かずに驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください。」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん 山下さん

ネットにそのようなニュースが出ていますね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくないと思います。別の表現にはどうでしょうか。

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにはしよう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合わないといけませんね。以前から、私も気になっていました。

場面②

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん 山下さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりだと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていないことがあります。

A

場面③

(課題)
地域とのつながりを大切に文化祭にするために
一 生徒会が地域で行っていることについての展示
・高齢者向けの施設での交流会の様子
・地域の清掃活動の様子
二 展示や発表を見に来てくださる方への配慮

倉田さん 西野さん 山下さん

「生徒会が地域で行っていることについての展示」は、この二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

三 課題の① Aで山下さんは、「どうするか決まっていない」とについて自分の考えを述べようとしている。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。
なお、読み直して文章を直したいときは、二枚紙で書いた行間にも書き加えても構いません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていない」とは何らかを明確にして書きなさい。
条件2 条件1で示した「どうするか決まっていない」とを解決する具体的な案を述べ書きなさい。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

話し合いをする際には、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりしながら、常に自分の考えと比較し、考えをまとめていく必要がある。この問題では、地域とのつながりを大切にしたい文化祭をするために、生徒が取り組むことについて話し合っている場面を取り上げている。話し合いの中で、提案された未解決の部分（「土足禁止」の表現をどうするか）に気づき、それを解決するための具体的な自分の考えを適切に表現できるかを問う問題である。ここでは、話題に挙がった「土足禁止」の表現が適切でない点について、解決策が話し合われていないことに気づき、来校者に向けてふさわしい表現は何かという自分の考えをもつことが必要となる。

同様の力を問う問題について経年で比較すると依然として課題が見られている。誤答の傾向を見てみると、下記のとおり三つの傾向に分かれている。

- ① 無解答
- ② 「土足禁止」という掲示物の表現に関わらない別な点について指摘したもの
- ③ 「土足禁止」という掲示物の表現について話し合っていないことを指摘しただけに留まったもの

①の無解答の生徒については、その背景として三つの傾向が考えられる。一つ目は、問われていることが理解できず書けなかったもの、二つ目は、問われていることは理解できたが、「土足禁止」の表現をどうするかという未解決の部分に気付くことができず書けなかったもの、三つ目は、問われていることも理解でき、未解決の部分に気付くこともできたが、条件に合わせてどのように書けばよいか分からなかったものである。特に、一つ目と三つ目の傾向については、実際の言語活動を遂行する場面で、このような問い方や条件付けの下で考える学習経験を十分に積ませる必要がある。

②の生徒については、既に結論の出ている「段差への注意を促す掲示物」や、「展示や発表の場所が決まってから検討」することになった「具体的な経路の例」について、今この場で話し合う必要があると捉えてしまったことが考えられる。②及び①の無解答の二つ目の傾向の生徒は、話し合いの話題や方向を適切に捉えることができていない状況である。こういった課題への指導の方策として、例えば、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられる。話し合いの記録を取ることによって、その記録を基に、話し合いの仕方を一度見直ししながら、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりすることができる。

③の生徒については、話し合いの流れを踏まえて「土足禁止」の表現をどうするか話し合われていない点について指摘することはできているが、解決する具体的な案について考えをもつことができなかったものと考えられる。こういった課題への指導の方策として、例えば、話し合いを実際に行う前に、実際に話し合っている例を提示し、「この発言に対して発言するとしたら…」というように自分の考えをどう述べたらよいか検討する学習を単元に位置付けるなどの工夫が考えられる。

<全体的な考察>

県の平均正答率は 56%で、全国の平均正答率 60%を下回っており、引き続き課題がある。

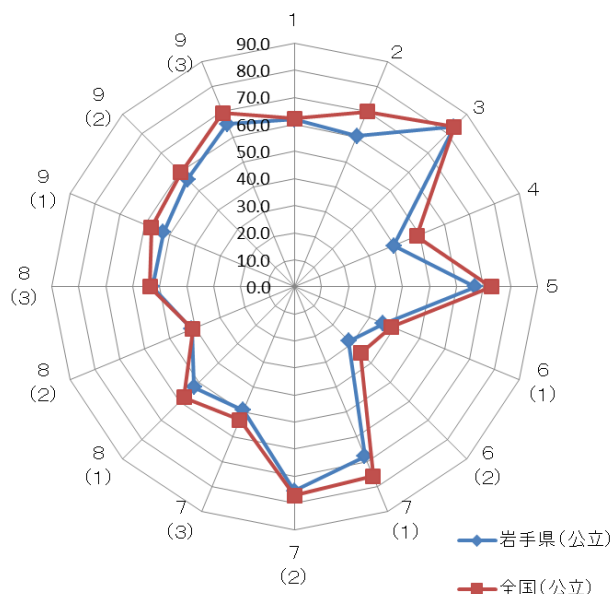
右のグラフのとおり、各小問で少しずつ下回っている。領域別にみると、特に「数と式」で-4.6ポイント、「関数」領域で-6.3ポイントと差が大きい。また、評価の観点別では「技能」で-8.3ポイントとなっており、全国平均正答率を大きく下回る結果となった。

一方で、**8**(2)では、記述式の問題で6年ぶりに全国の平均正答率を上回っており、改善が見られる。現行の学習指導要領で、「資料の活用」領域が新設されたことを受け、各校においてその趣旨を踏まえて指導改善に取り組んだ成果であると考えられる。

誤答や無解答について、おおむね全国と似た傾向が見られることから、報告書や授業アイディア例などを参考に、積極的に指導改善に取り組み、課題となる設問を含む単元や学習内容のまとまりに着目し、生徒の誤答から見えるつまづきを克服する視点で授業づくり等を工夫していくことが大切である。

どのような数学的な見方・考え方を働かせ、どのような数学的活動を通して、どのような数学的に考える資質・能力を育むかというねらいを明確にして授業づくりを進めるとともに、生徒が目的意識をもって数学的に問題発見・解決する過程を重視し、活用・発展・統合の場面を各単元の指導計画に位置付け授業改善に取り組むことが望まれる。

様々な研修等で学んだことをもとに、諸調査等と高校入試問題等との関連を踏まえながらP D C Aサイクルを生かした指導と評価の一体化を図る取組を継続し、生きて働く知識及び技能の習得や、実生活の様々な場面に活用する力、課題解決のために構想を立てて実践し、解決の過程や結果を振り返るなどの資質・能力を確実に育成するよう、一層の指導改善を図る必要がある。



<成果や伸びが見られた問題>

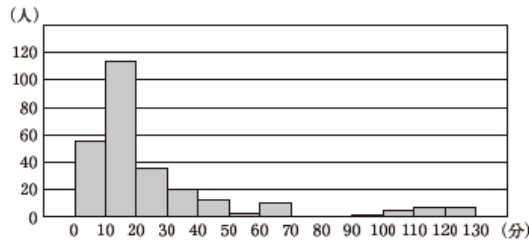
8 (2) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

8 (2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」
 桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

○ 分析と今後の学習指導に当たって R1 8(2) 平均正答率 岩手県 41.2% 全国 40.8%

本設問は、データの分布の様子をヒストグラムから的確に読み取り、平均値付近の階級に度数が集中していないことについて、その理由を数学的な表現を用いて説明することができるかを見るものである。

本県の大きな課題である記述式の問題において、全国平均正答率を0.4ポイント上回っており、データの分布の様子を的確に捉え、判断し、その理由を説明することについて成果が見られた。

平均値と最頻値が一致しない資料において、分布の様子と平均値の関係についてヒストグラムと照らし合わせながら考察したり、その理由を数学的な表現を用いて説明したりする活動を取り入れた授業改善が進められたためと考えられる。

指導にあたっては、データの分布の特徴を捉えて、「□□は適切ではない」等の説明すべき事柄とその根拠を明確にして説明できるようにすることが大切である。

(参照「平成31年度(令和元年度)【中学校】授業アイデア例」p11~12)

<特徴的な課題となった問題>

○ 全国平均正答率との差がもっとも大きく、引き続き課題である問題

2 具体的な問題を解決する場面において必要となる簡単な連立二元一次方程式を解くこと。

2 連立方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解きなさい。

R1	2	平均正答率	岩手県	60.3%	全国	70.1%
		無回答率	岩手県	7.7%	全国	5.1%
H26A	3	(4) 平均正答率	岩手県	58.2%	全国	67.2%
		無解答率	岩手県	14.0%	全国	10.0%

○ 分析と今後の学習指導に当たって

本設問は、具体的な問題を解決する場面において必要となる簡単な連立二元一次方程式を解くことができるかどうかをみる問題である。

平成26年度調査数学A3(4)の関連問題で、平均正答率は上がっているものの、全国平均正答率との差については大きくなっており、引き続き課題がある。

連立二元一次方程式を解くことについては、具体的な問題の解決に必要な程度の方程式を解けるようにすることが求められることから、その後の活用場面に登場する問題について把握したうえで、意図的に学習内容に組み込むなどの工夫が考えられる。

本設問は、一次関数の学習においてグラフの交点を求める問題の解決に必要な技能であることから、連立方程式の解き方の学習においても重点的に扱い、習熟を図ることが大切である。

解答類型を見ると、最初にxを消去し、yの値を先に求めたと推測される解答類型3、6の反応率の合計は4.0%（全国2.6%）で、全国より高くなっている。これらの中には、式の特徴を捉えることなく加減法で解を求めようとしている生徒がいると考えられる。

学習指導に当たっては、例えば、式の特徴をふまえてどちらの文字を先に消去するか、どのように消去するかといった見通しについて話し合ったり、加減法と代入法2つの方法で解き、それらを比較して振り返ったりする場面を設定することが考えられる。

(参考) H26 数学A3(4)

(4) 連立方程式 $\begin{cases} y = 3x - 2 \\ y = 2x + 3 \end{cases}$ を解きなさい。

<特徴的な課題となった問題>

○引き続き課題である問題

4 反比例の表から、式を求めること

4 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	3	6	X	-6	-3	-2	...

R1	4	平均正答率	岩手県	39.7%	全国	48.9%	
H21A	10	(2)	平均正答率	岩手県	27.4%	全国	41.1%

○ 分析と今後の学習指導に当たって

本設問は、反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができるかどうかをみるものである。平成21年度数学A10(2)において同趣旨で出題されており、平均正答率は12.3ポイント上がっているものの、本年度の全国平均正答率と比べて9.2ポイント下回っており、依然として課題があると考えられる。

反比例については、一般的に文字を用いた式で表現することを学習するが、 x と y の積が一定で比例定数となることや、変化が一定ではないことなどの性質や特徴について、表・式・グラフを相互に関連付けて学習することが大切である。

解答類型をみると、比例や一次関数の式の形である解答類型5、6の反応率の合計が27.0%（全国20.6%）となっている。これらの中には、反比例を表す表・式・グラフの理解が不足している生徒や、表の一部のみに着目して、全体の変化を捉えていなかったり、 x が増加するに伴って y も増加する関数は、比例や一次関数になると誤解していたりする生徒がいると考えられる。

指導に当たっては、表から情報を読み取る視点として、 x と y の変化や対応に着目させたり、表から読み取った座標をもとにグラフの概形をかいて全体の変化の様子を調べたりするなど、表・式・グラフを相互に関連付けながら問題解決を図ることが考えられる。

(参考) H21 数学A10(2)

(2) 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-3	-6	X	6	3	2	...

【誤答例】

- ・ $y = -6x$ などの比例の式 (解答類型5)
- ・ $y = x - 6$ などの一次関数の式 (解答類型6)

<全体的な考察>

全ての都道府県が平均正答率±10%の範囲内であり大きな差はみられない。本県の平均正答率は52%（全国の平均正答率56%）で、問題数にすると0.8問分全国を下回っていることになるが、授業改善により向上可能な範囲であると捉えている。

【課題等】

主な特徴

- ・ 領域別にみると、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」いずれにおいても全国の平均正答率を下回っており、特に「書くこと」については7.8ポイントの差である。
- ・ 無解答率は、おおむね全国と似た傾向にあるものの、本県の特徴としては、聞いたことをもとに書いたり、読んだことをもとに書いたりするなど技能統合的な力が求められる問題において無回答率が高い。
- ・ 一方、「聞くこと」や「読むこと」の平均正答率は全国と大きな差が見られないことから、聞いたり読んだりした内容を理解する力はある程度身に付いていると言える。受信した内容をについていかに発信（話す・書く）かという視点のもと、技能を統合した活動を充実させることが望まれる。

聞くこと

- ・ 日常的な話題について聞くことはおおむねできている。〔1〕
- ・ 聞いて把握した内容について書くことによって適切に応じることに課題がある。無回答率が49.5%（全国42.3%）。〔4〕

読むこと

- ・ 書かれた内容に対して自分の考えを示すことに課題がある。自分の考えを書いて示すことのできなかった生徒が34.0%（全国27.9%）。〔8〕

書くこと

- ・ 文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題がある。ただし、この問題は比較的難易度が高いものの、無解答率が10.3%（全国8.3%）にとどまっており、粘り強く解答しようとした姿勢がうかがえる。〔10〕

【指導改善のポイント】

- ・ 自校の調査結果の分析をもとにつまづきや課題を明らかにし、その課題解決に向けた授業改善の具体的な取組を早急に推進する必要がある。その際、授業改善方策シートを活用しながら自校の実態や目標値・指標の再確認をした上で、より一層PDCAサイクルの強化を図っていくことが求められる。
- ・ 聞いたことや読んだことについて、アドバイスを書いたり、自分の考えを書いたりするなど複数の技能を統合した言語活動を充実させることが望まれる。
- ・ 「英語で何ができるようになるか」を示したCAN-DOリスト形式の学習到達目標を、改めて生徒と教師が共有することにより、生徒の学習改善及び教師の指導・評価改善に活用することが大切である。
- ・ パフォーマンステストを通じ、英語を用いて「できる」ことの体験を積み重ねていくことが必要である。

<成果が見られた問題>

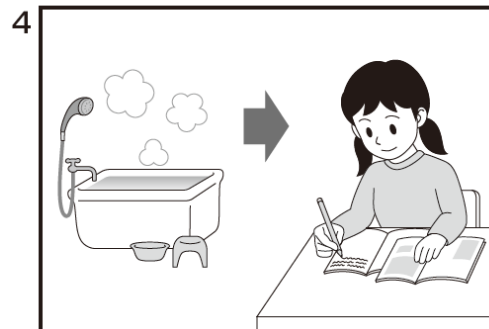
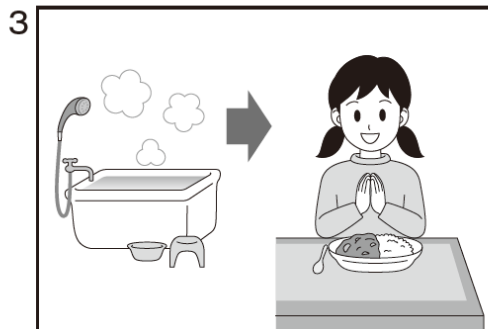
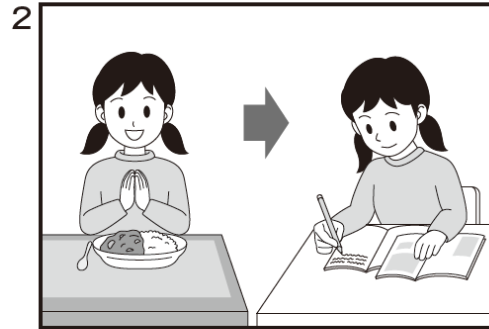
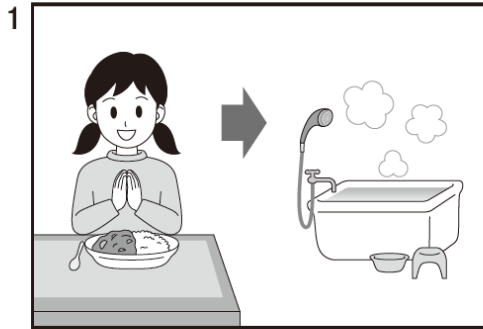
1 (4) 情報を正確に聞き取る **聞くこと**

1 (放送問題)

R1 平均正答率 岩手県 64.2% 全国 61.8%

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(4) <家での会話>



A: I'm so hungry.
B: Today's dinner is curry and rice. It will take about thirty minutes to cook. Do you have any homework today?
A: No, I don't.
B: Then take a bath before dinner.
A: OK.

○分析と今後の学習指導に当たって

出題の趣旨

日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

- これはAさん→Bさん→Aさん→Bさん→Aさん、というように複数回往復している会話形式の問題である。普段からまとまった内容の英語を聞かせる指導がなされている成果であると考えられる。
- before dinner など時間の前後関係を示す表現について丁寧に指導がなされていると考えられる。
- 例えば、before～や after～などを用いた日常の生活パターンや週末の予定について聞いたり、口頭でやり取りしたりする活動をするなど、引き続き継続した指導が求められる。

<特徴的な課題となった問題>

○無解答率の高かった問題

平均正答率	岩手県	5.6%	全国	7.6%
無解答率	岩手県	49.5%	全国	42.3%

4 聞いた内容について適切に応じる 聞くこと

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。
メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に
書きなさい。

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer.

○分析と今後の学習指導に当たって

出題の趣旨

聞いて把握した内容について、適切に応じることができるかどうかをみる。

- 英語を書くことによって解答する問題であるが、外国語表現の能力をはかるものではなく、英語で聞いて把握した内容について適切に応じることができるかどうかをもって外国語理解の能力を評価するものとして出題されたものである。
- 下記の解答類型(誤答例)をみると、解答した生徒の中にも英語を聞き取って理解することができなかった生徒がいると考えられる。この問題のように、絵や図などがなく、理解の助けになる資料がなくても、場面や状況を確認した上で聞く活動を継続することが望まれる。英語を聞く際には、常にその目的を明確にして活動することが大切である。
- 無解答を減らすために、普段の授業において聞くことのみでの指導に偏ることなく、「聞く」から「書く」などにつながる技能を統合した活動を継続して行い、聞いたことについて書くことに慣れさせる必要がある。その際、どのような場面、状況であるのか明確して活動することが大切である。
- 授業においては、音声メッセージを聞いた後に、インタラクションをしながらメッセージの内容について確認し、ニックへのアドバイスを口頭で交流した上で書く活動に移るという方法も考えられる。
- 行う活動のねらいにもよるが、書くことについては相手に伝わる程度の範囲内であれば誤りを含んでいても問題ないことを生徒と確認する。また、解答はしているが、アドバイスとしては不十分であったり、書き手の考えを伝える上で不十分であったりする内容であっても、書いたことを評価し、認める。その上で、文法事項等必要な指導を行う。

反応率 岩手:23.4% 全国:31.1% (解答類型 3)	ニックができる部活動についてのアドバイスになっていないもの [誤答例]・ You should come to my house. please come soon. ・ Hello. I help you.
反応率 岩手:19.0% 全国:15.8% (解答類型 4)	書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあるため、伝えたい内容が理解できないもの [誤答例]・ He comes country is very great. (動詞の使い方に誤り) ・ Good. (何を伝えようとしているのか分からない)
無解答率 岩手:49.5% 全国:42.3%	

<特徴的な課題となった問題>

○無解答率の高かった問題

平均正答率	岩手県	7.3%	全国	10.9%
無解答率	岩手県	34.0%	全国	27.9%

8 読んだ内容について適切に応じる 読むこと

8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)
project: 事業 waste: ~を無駄にする rice ball: おにぎり
not only ~, but also ...: ~だけでなく, ...も

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

○分析と今後の学習指導に当たって

出題の趣旨

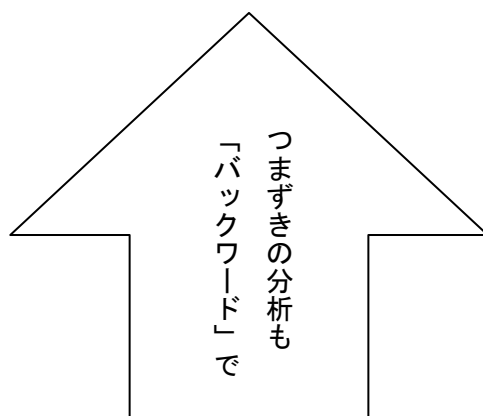
書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができるかどうかをみる。

- ・ 英語を書くことによって解答する問題であるが、外国語表現の能力をはかるものではなく、英語で書かれた資料を理解しているかどうかを評価するものとして出題されたものである。
- ・ 読んで理解できないだろうから、と読むことの指導のみに注力するのではなく、この問題において最終的に求められる「書くこと」から重点的に指導することも有効である。この問題の全体像を捉え（森）、そこからつまずきに対応した手立て（木）を講じるというような「森から木へ」という指導過程である。
- ・ 「書くこと」に焦点をあてた場合、どのようにどれだけの英文が書ければよいのか、という評価規準を普段から生徒と共有することが重要である。

- ・ つまづきの把握については、指導する側のみならず、学習者である生徒自身も何ができて何ができないのか、自分に必要な学習は何であるのかについて認識することが重要である。
- ・ この設問は、技能を統合した活動のモデルとなっており、授業において複数の技能を統合した活動に継続的に取り組むことが求められている。
- ・ それぞれの生徒がそれぞれのつまづきを抱えており、そのつまづきをすぐに乗り越えられる場合もあれば、ある程度の時間を要する場合もある。一度の指導にとどめず、内容を変えながら繰り返し指導することにより定着が図られる。
- ・ 「指導→活動→指導」だけではなく「活動→指導→活動」という指導過程も取り入れることにより、最初の活動でつまづきを表出させ、指導をした上でもう一度活動することによりつまづきの修正を促すことも考えられる。

反応率	つまづきのタイプ
岩手:33.0% 全国:39.0%	食料を無駄にすることをやめるために自分ができていることを示していないもの 〔誤答例〕 We don't waste food. We have to stop wasting food now.
(解答類型 4)	

反応率	つまづきのタイプ
岩手:23.9% 全国:20.1%	書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあるため、伝えたい内容が理解できないもの 〔誤答例〕 I think not waste food. I'm eat food is not waste.
(解答類型 5)	



書いた内容を認め、評価し、文法等の指導も行いながら、正しい英文を書けるよう教師も粘り強く指導、支援する。長い時間を要する場合も考えられるが、生徒に寄り添い、励まししながら、生徒の伸びを生徒とともに喜び合いたい。

無解答率	指導の手立て
岩手:34.0% 全国:27.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多少の文法的な間違いがあっても、内容が伝わればよいという評価規準のもと、<u>は既存の知識で書くよう促す。</u> ・ <u>書けたことを評価し、認めながらも</u>、文法や語彙等のつまづきについては<u>必要な指導</u>を入れる。 ・ 自分の考えを持つことが難しい生徒に対しては、普段の授業において How about you? / Why? / What do you think? 等と問いかけて<u>思考を促し、自分の考えをもてるよう働きかけを継続</u>する。 ・ 読む目的に応じ、要点を把握する読み方、概要を理解する読み方等の指導を並行して行う。ただし、読むことの指導のみになることのないよう、例えば書くことにつなげるなど技能を統合した言語活動を積み重ねる必要がある。

<特徴的な課題となった問題>

○ 正答率が低い問題

9 (3) 語や文法事項等を理解して正しく文を書く **書くこと**

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×

R1 平均正答率

岩手県	①39.6%	②20.7%	③20.9%
全国	①53.5%	②32.9%	③37.4%

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

①

②

③

○ 分析と今後の学習指導に当たって

出題の趣旨

与えられた情報に基づいて、三人称単数現在時制の肯定文または、否定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

- 右記に挙げた誤答例は、話し言葉としては十分に相手に伝わる程度の誤りであるが、この設問の出題のねらいは「正しく」書くことである。正しい英文を書くところまであと一步のところまで達している生徒が多いことが分かる。
- 多くの生徒に共通するつまずきを見取って指導することが求められる。このようなつまずきを表出させるためにも、適時適切な言語活動を行うことが必要である。
- 例えば、この問題を生かした言語活動として以下のようなものが考えられる。

お互いインタビューをして得た情報を簡単にメモする

メモをもとに別な人に口頭で伝える

メモをもとに英文で書く

他の人が書いた英文を読む

出身県 (市)	
住んでいる地区	
ペットの有無	

問題	誤答が見られる解答類型の一部
①	She from Australia. (解答類型 5) (be 動詞の脱落等) 反応率 岩手:44.4% 全国:35.2% 無解答率 岩手: 8.8% 全国: 6.4%
	She live in Rome. (解答類型 3) (動詞の活用形に誤り) 反応率 岩手:16.1% 全国:15.8%
	② She lives Rome. (解答類型 4) (語や文法事項に誤り) 反応率 岩手:25.7% 全国:23.0% 無解答率 岩手:12.6% 全国: 9.3%
③	She don't have pet. (解答類型 3) (三単現の否定文になっていない)
	She not have a pet. (解答類型 3) (一般動詞の否定形として誤り) 反応率 岩手:25.5% 全国:20.2%
	無解答率 岩手:13.1% 全国:10.5%

- 活動中に見取ったつまずきをフィードバックし、生徒がつまずきを改善する機会を保障することも重要である。
- ①～③いずれも、第1学年で学習する内容であるが定着状況が思わしくない。当該単元で扱って終わりということではなく、何度も繰り返し用いることで定着が図られる。これらのことを踏まえてみても、Small Talk はつまずきの見取りやその修正、繰り返し取り組みながら定着を図る上でも効果的な手法である。
- 最終的に書くことを求める活動であったとしても、その前に口頭でやり取りをするなど技能を統合した活動の充実が求められる。

＜学校質問紙調査及び児童生徒質問紙調査＞

学校質問紙・児童生徒質問紙のうち、特徴的な回答について

- : 結果が良好である／成果として捉えることができる
- △ : 課題ではあるが、改善が見られてきている
- : 課題として捉え、改善が急務である

※グラフは左側が小学校、右側が中学校
 ※ □ は同一集団の経年比較を表す

例 県
H30
小5/中2 =平成 30 年度 小5/中2
 県学習定着度状況調査

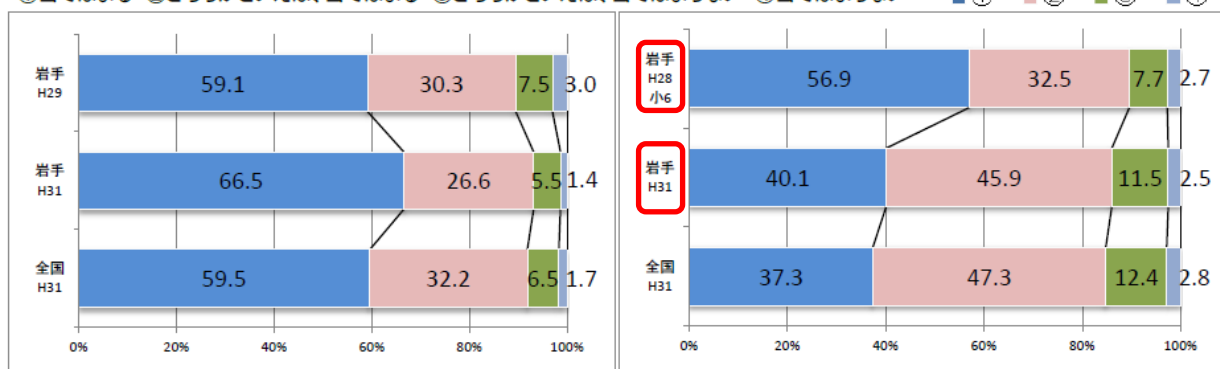
例 岩手
H31 =平成 31 年度
 全国学力・学習状況調査
 における本県の結果

1 学習指導について

- 小・中学校とともに、「授業やテストにおける誤答やつまずきに対する先生の指導」について、積極的肯定回答の割合が、全国と比べて高い結果となっている。

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。(小中【7】)

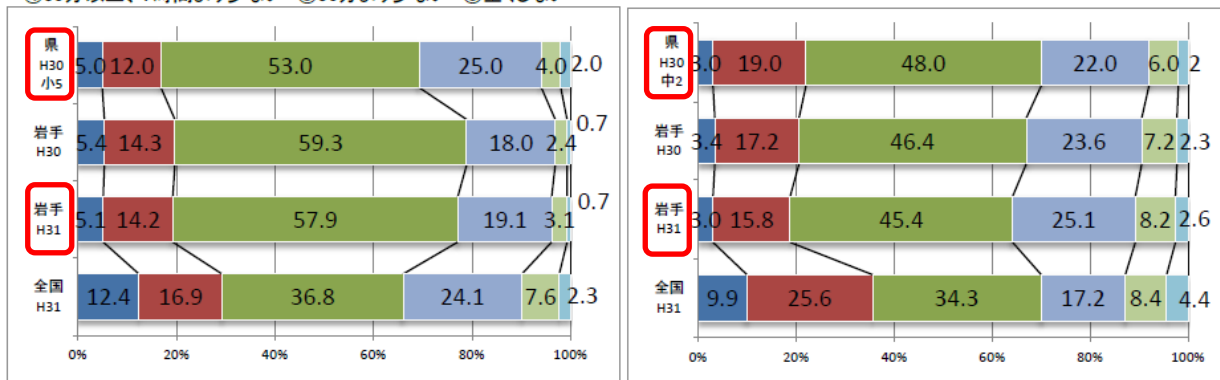
①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



- 平日の学習時間について、小・中学校ともに、「2時間以上」の割合が昨年度より減少しており、課題が見られる。昨年度から今年度の間における同一集団の経年比較では、「2時間以上」については、小学校は2.3ポイント増加しているが、中学校は3.2ポイント減少している。今後は、児童生徒の家庭学習の機会を確保する工夫とともに、児童生徒のつまずきを生かした問題や発展的な問題を計画的に取り組みせるなど、家庭学習を行うことの有効性等を児童生徒に実感させながら、その内容の充実を図る必要がある。

学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(塾等の時間を含む)
 (小【18】 中【18】)

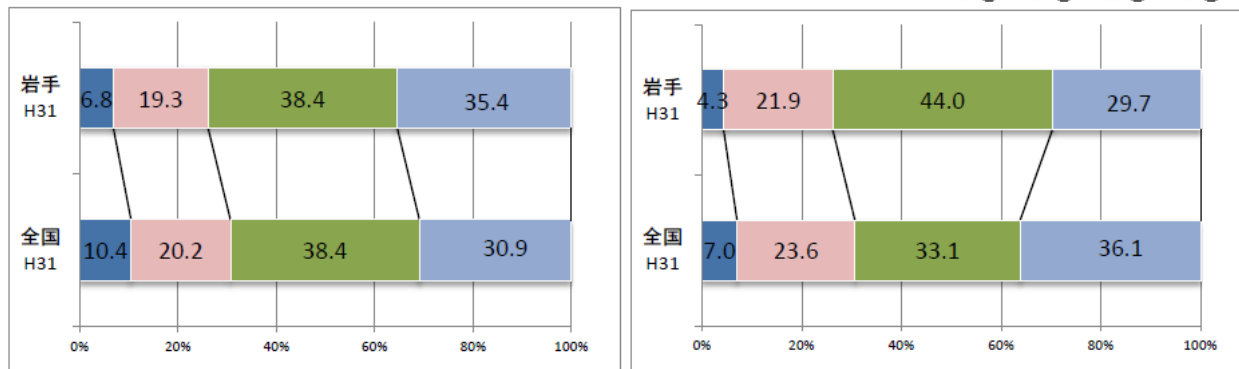
①3時間以上 ②2時間以上、3時間より少ない ③1時間以上、2時間より少ない
 ④30分以上、1時間より少ない ⑤30分より少ない ⑥全くしない



△ 「児童生徒がコンピュータ等の ICT を活用した学習活動を行った回数」については、全国と比べて低い、教員の授業改善の視点の一つとして、ICT の活用については徐々に環境整備が整うとともに成果が表れてきている。

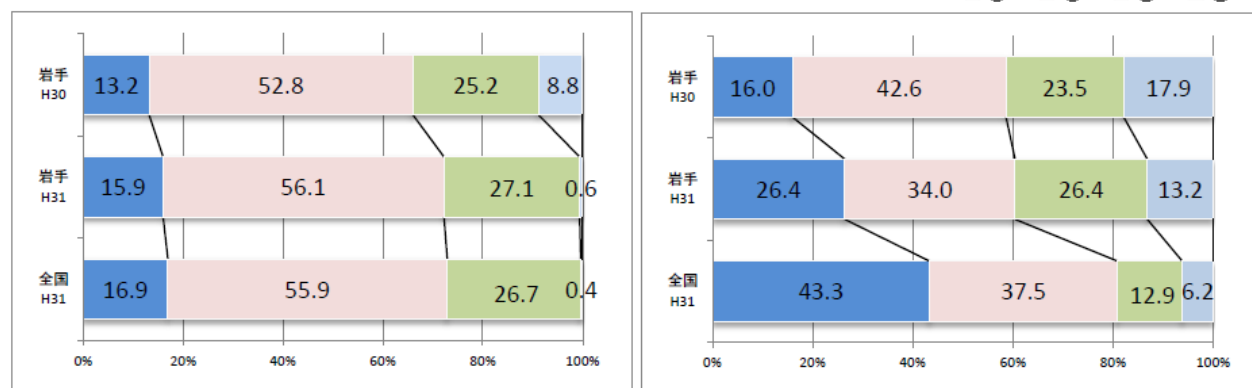
5年生までに(中学1、2のときに)受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。
(小【27】 中【30】)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。(小【49】 中【63】)

①ほぼ毎日 ②週1回以上 ③月1回以上 ④月1回未満

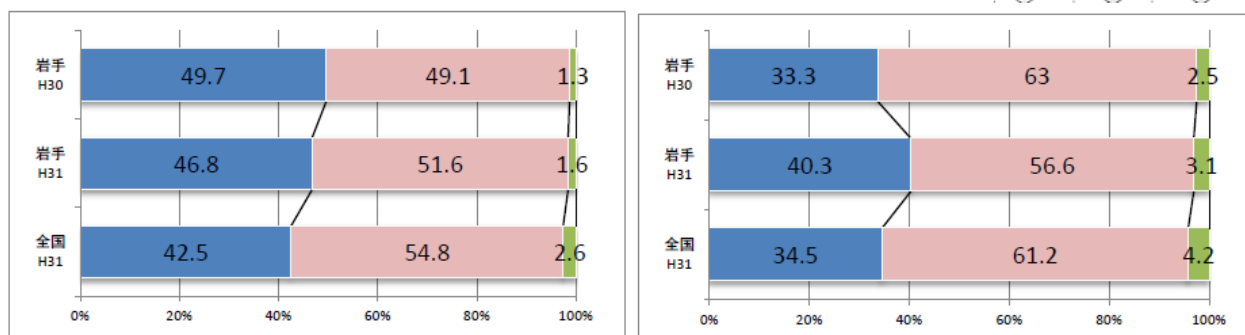


2 調査結果の活用及び学校全体の取組について

△ 「昨年度の全国学調の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」については、小学校では積極的肯定回答が全国を上回っている。一方、中学校では、昨年度から積極的肯定回答の割合が 4.7 ポイント増加し、改善が見られるものの、全国と比べて1ポイント低く、組織的な取組のさらなる推進が必要である。

昨年度の全国学調の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。(小【63】 中【79】)

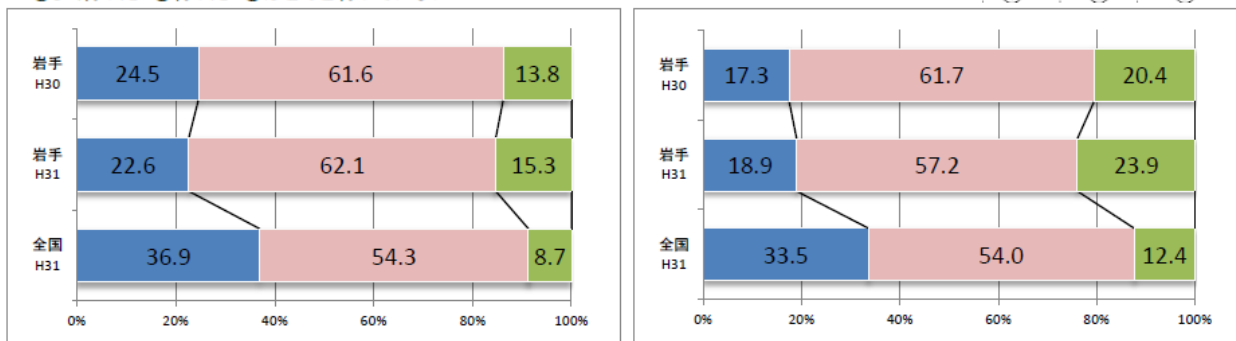
①よく行った ②行った ③ほとんど行っていない



- 「全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った」について、昨年度から積極的肯定回答の割合が、小学校で 1.9 ポイント、中学校でも 1.5 ポイント減少し、課題が見られる。また、全国と比べても未だ低い状況が継続している。学校の取組について積極的に情報提供を行い、家庭や地域の理解と協力を得ることが学力向上においても大切であることから、引き続き改善に向けた取組が必要である。

昨年度の全国学調の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)(小【64】 中【80】)

①よく行った ②行った ③ほとんど行っていない



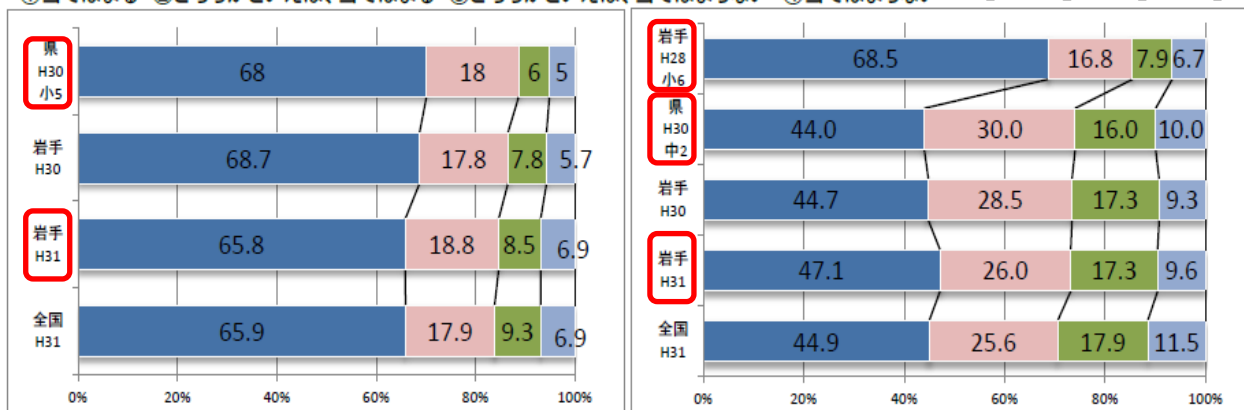
3 児童生徒の意識について

- △「将来の夢や目標をもっている」について、全国と比べると、小学校の肯定回答割合は、1.9 ポイント、中学校の肯定回答割合は、0.1 ポイント減少している。また、昨年度から今年度の間における同一集団の経年比較では、小学校、中学校ともに肯定回答の割合が減少している。日常生活の中において、キャリア教育と関連付けながら、学習の意義や将来の進路について考えさせる指導の工夫が必要である。

将来の夢や目標を持っていますか。(小中【8】)

いわて幸福関連指標

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

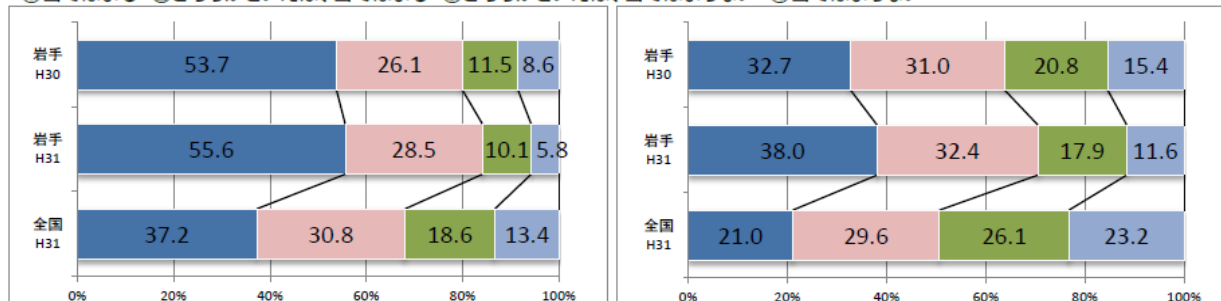


4 児童生徒の家庭・地域での生活について

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」については、昨年度同様に良好な結果となっている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」についての児童生徒の割合も全国と比べて高く、児童生徒の地域に対する思いと地域との結びつきが強いことがわかる。

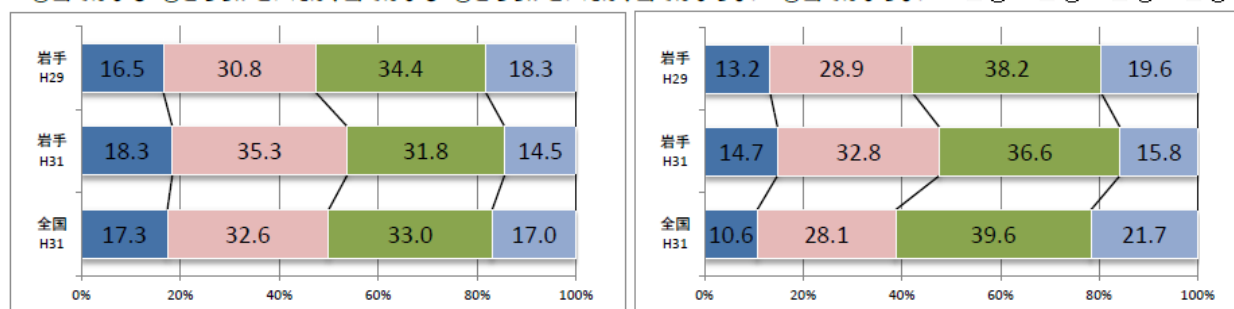
今住んでいる地域の行事に参加していますか。(小中【23】)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(小中【24】)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



議案第 11 号

県立学校の設置及び廃止並びに県立学校の学科の設置及び廃止に関し議決を求めることについて

次のとおり県立学校の設置及び廃止並びに県立学校の学科の設置及び廃止をすることについて、議決を求める。

1 県立高等学校の設置

学校名	区 分	課程等	学科名	位 置
岩手県立宮古商工高等学校		全日制	機械科	宮古市
		全日制	機械システム科	
		全日制	電気電子科	
		全日制	電気システム科	
		全日制	建築設備科	
		全日制	商業科	
		全日制	総合ビジネス科	
		全日制	流通経済科	
		全日制	流通ビジネス科	
		全日制	会計科	
		全日制	情報科	
全日制	情報ビジネス科			

2 県立高等学校の廃止

学校名	区 分	課程等	学科名	位 置
岩手県立宮古工業高等学校		全日制	機械科	宮古市
		全日制	電気電子科	
		全日制	建築設備科	
岩手県立宮古商業高等学校		全日制	商業科	宮古市
		全日制	会計科	
		全日制	情報科	
		全日制	流通経済科	

3 県立高等学校の学科の設置

学校名	区 分	課程等	学科名	位 置
岩手県立一関工業高等学校		全日制	電気電子科	一関市

4 県立高等学校の学科の廃止

学校名	区 分	課程等	学科名	位 置
岩手県立水沢農業高等学校		全日制	環境工学科	奥州市
		全日制	生活科学科	
岩手県立釜石商工高等学校		全日制	電子機械科	釜石市

5 設置及び廃止の時期

令和 2 年 4 月 1 日

令和元年 8 月 19 日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 博

理由

県立学校の設置及び廃止並びに県立学校の学科の設置及び廃止をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

令和2年度（2020年度）

県立学校の編制について

岩手県教育委員会

I 令和2年度（2020年度） 県立高等学校の編制について

1 課程別・学科別募集学級数及び募集定員

令和2年度（2020年度）の課程別・学科別募集学級数及び募集定員の状況は、次の表のとおりである。

区 分			募 集 学 級 数			募 集 定 員		
			平成31年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	差	平成31年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	差
県 立	全 日 制	普通科・理数科 体育科	136	129	▲7	5,440	5,160	▲280
		職業に関する学科	72	69	▲3	2,880	2,760	▲120
		総合学科	28	26	▲2	1,120	1,040	▲80
		小 計	236	224	▲12	9,440	8,960	▲480
	定 時 制	普通科	13	13	0	520	520	0
		職業に関する学科	1	1	0	40	40	0
		小 計	14	14	0	560	560	0
合 計			250	238	▲12	10,000	9,520	▲480

2 ブロック別募集学級数増減

令和2年度（2020年度）のブロック別募集学級数増減の状況は、次の表のとおりである。

ブロック等	募集学級数 (全日制・ 定時制)	学校名	平成31年度(2019 年度)設置学科及 び募集学級数	令和2年度(2020 年度)設置学科及 び募集学級数	令和2年度(2020年度) 学級数増減		
					学 科	増	減
盛岡	79→77 (全72、定5)	盛岡北高校	普通 6	普通 5	普通		▲1
		紫波総合高校	総合 5	総合 4	総合		▲1
岩手 中部	38→37 (全37、定0)	北上翔南高校	総合 6	総合 5	総合		▲1
胆江	26→25 (全23、定2)	金ヶ崎高校	普通 3	普通 2	普通		▲1
両磐	25→23 (全22、定1)	一関第一高校	普通・理数 6	普通・理数 5	普通・理数		▲1
		一関工業高校	電気 1	電気電子 1 電子機械 1 土木 1	電気 電気電子 電子 電子	1	▲1
			電子 1				▲1
			電子機械 1 土木 1				▲1
気仙	15→14 (全13、定1)	高田高校	普通 4 海洋システム 1	普通 3 海洋システム 1	普通		▲1
釜石・ 遠野	17→16 (全15、定1)	釜石高校	普通・理数 5	普通・理数 4	普通・理数		▲1
宮古	21→17 (全16、定1)	山田高校	普通 2	普通 1	普通		▲1
		宮古高校	普通 6	普通 5	普通		▲1
		宮古工業高校	機械 1		機械 電気電子 建築設備	▲1 ▲1 ▲1	
			電気電子 1				
			建築設備 1				
		宮古商業高校	商業 1		商業 会計 情報 流通経済	▲1 ▲1 ▲1 ▲1	
会計 1 情報 1 流通経済 1							
宮古商工高校			機械システム 1 電気システム 1 総合ビジネス 1 流通ビジネス 1 情報ビジネス 1	機械システム 1 電気システム 1 総合ビジネス 1 流通ビジネス 1 情報ビジネス 1	1 1 1 1 1		
久慈	16→16 (全14、定2)						
二戸	13→13 (全12、定1)						
合計	250 → 238 (全224定14)				普通 普通・理数 体育 農業 工業 商業 水産 家庭 総合 定時制	3 3	▲5 ▲2 ▲5 ▲4 ▲2
					計	6	▲18

3 学科改編

令和2年度（2020年度）の学科改編の状況は、次の表のとおりである。

ブロック等	学校名	平成31年度（2019年度）設置学科及び募集学級数	令和2年度（2020年度）設置学科及び募集学級数	理由
両磐	一関工業高校	電気 1 電子 1 電子機械 1 土木 1	電気電子 1 電子機械 1 土木 1	少子化による生徒減少に対応し、かつ魅力ある学科構成とするため、生徒の進路希望の動向、地域産業のニーズ及び社会情勢の変化等を踏まえた学科改編を行うものである。 新たに設置する電気電子科は、電気科と電子科の教育課程を引き継ぎ、「電気」と「電子」の両方を学ぶことができる学習内容とする。

4 学校再編

新たな県立高等学校再編計画で、令和2年度（2020年度）の改編を計画した県立高校の状況は、次の表のとおりである。

ブロック等	学校名	現行	改編内容	改編の目的
宮古	宮古商工高校	宮古工業高校 機械 1 電気電子 1 建築設備 1 宮古商業高校 商業 1 会計 1 情報 1 流通経済 1	【統合】 宮古商工高校 機械システム 1 電気システム 1 総合ビジネス 1 流通ビジネス 1 情報ビジネス 1	望ましい学校規模を確保して学校全体の教育環境を活力あるものとし、各学科の専門性を維持できるよう、既存校舎の施設を活用する校舎制により、工業、商業に関する学科を併せ持つ専門高校として、一層の充実を図るよう整備するものである。

5 年次進行に伴う県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止

平成30年度から募集を停止しており、今年度をもって平成29年度入学生が卒業することから、令和2年度（2020年度）に県立高等学校の学科を廃止するものである。廃止状況は、次の表のとおりである。

ブロック等	学校名	課程	学科名	位置
胆江	水沢農業高校	全日制	環境工学 1 生活科学 1	奥州市
釜石・遠野	釜石商工高校	全日制	電子機械 1	釜石市

II 令和2年度 県立特別支援学校の編制について

令和2年度（2020年度）に県立特別支援学校の課程及び学科の廃止はない。

令和2年度（2020年度）県立学校の編制について

1 令和2年度（2020年度）学科改編・学級減等の取扱いについて

1 再編計画関係

令和2年度（2020年度）の学級編制については、原則として、「新たな県立高等学校再編計画」（以下「再編計画」という。）における前期計画に基づき実施するものであるが、ブロック内の中学校卒業予定者数や、各校の定員充足状況等に大きな変化があった場合には、実施時期等の変更も検討することとしているところであり、これまでの状況等を考慮した結果、次のとおりとする。

- (1) 盛岡北高校、紫波総合高校、北上翔南高校、一関第一高校、一関工業高校、高田高校、釜石高校、宮古高校については、再編計画のとおり学科改編・学級減を行う。
- (2) 平成31年度の学級減を延期した山田高校については、学級減を行う。
- (3) 盛岡第三高校、不来方高校、盛岡工業高校、花北青雲高校、一戸高校については、令和2年度（2020年度）の学科改編・学級減を延期する。
- (4) 再編計画において計画していた学科改編・学級減を延期した葛巻高校、花巻南高校、水沢工業高校、前沢高校については、令和2年度（2020年度）も学科改編・学級減を延期する。
- (5) 平成31年度（2019年度）の募集停止を延期した盛岡工業高校定時制課程については、令和2年度の募集停止も延期する。

2 管理運営規則関係

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則（以下「管理運営規則」という。）第3条第2項において、入学者に1学級定員を上回る欠員が生じた場合には学級数を減ずることがあるとしており、当該規定に基づき、次のとおりとする。

- ・ 金ヶ崎高校については、2年連続で欠員が40人を超えたことから、3学級から2学級への学級減を行う。

2 中学校卒業予定者数

平成31年3月 11,134人、令和2年3月（推計）10,678人（H31比▲456人）

3 平成31年度（2019年度）県立高校の募集定員と合格者数

全日制63校、募集定員9,440人、合格者数8,044人、欠員1,396人、一般入試志願倍率0.89

4 令和2年度（2020年度）学級編制について

（以下の表中 ※ 再編計画策定時の推計値はH25～H27年度の入試状況による）

- (1) 再編計画において令和2年度（2020年度）に学科改編・学級減等を予定している学校について

ア

盛岡第三高校 普通科7学級 → 7学級 【延期】

年度	H29		H30		H31 (2019)	
	総志願者	入学者	総志願者	入学者	総志願者	入学者
盛岡第三高校の総志願者・入学者 (定員280人)	422(+142)	286(+6)	348(+68)	287(+7)	352(+72)	287(+7)
再編計画策定時の推計*	285		277		270	
盛岡市内の中学校卒業生数	2,784		2,750		2,653	
盛岡ブロック内の中学校卒業生数	4,584		4,423		4,263	

（H31年度盛岡ブロック全日制定員3,235人（盛岡市立高校含む））

イ

盛岡北高校 普通科6学級 → 5学級						
年度	H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
盛岡北高校の入学者(定員240人)	241(+1)	243(+3)	240(±0)	-	-	-
再編計画策定時の推計*	242	240	230	224	207	221
滝沢市内の中学校卒業生数	578	584	561	543	488	553
盛岡ブロック内の中学校卒業生数	4,584	4,423	4,263	4,175	3,901	4,189

(H31年度盛岡ブロック全日制定員3,235人(盛岡市立高校含む))

ウ

不来方高校 普通科7学級 → 7学級 【延期】							
年度	H29		H30		H31(2019)		
不来方高校の総志願者・入学者 (定員280人)	総志願者	入学者	総志願者	入学者	総志願者	入学者	
		413(+133)	281(+1)	342(+62)	276(▲4)	360(+80)	285(+5)
各学系の 入学者 状況	人文・理数(160)	239(+79)	161(+1)	192(+32)	162(+2)	203(+43)	164(+4)
	芸術(40)	63(+23)	40(±0)	38(▲2)	32(▲8)	53(+13)	40(±0)
	外国語(40)	58(+18)	40(±0)	61(+21)	41(+1)	52(+12)	40(±0)
	体育(40)	53(+13)	40(±0)	51(+11)	41(+1)	52(+12)	41(+1)
再編計画策定時の推計*	282		264		261		
矢巾町内の中学校卒業生数	308		247		259		
盛岡ブロック内の中学校卒業生数	4,584		4,423		4,263		

(H31年度盛岡ブロック全日制定員3,235人(盛岡市立高校含む))

エ

盛岡工業高校 7学級 → 7学級 【延期】 (工業7)						
年度	H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
盛岡工業高校の入学者(定員280人)	279(▲1)	280(±0)	255(▲25)	-	-	-
各学科の 入学者 状況	[工業]機械(40)	40(±0)	40(±0)	40(±0)	-	-
	[工業]電気(40)	40(±0)	40(±0)	40(±0)	-	-
	[工業]電子機械(40)	40(±0)	40(±0)	36(▲4)	-	-
	[工業]電子情報(40)	40(±0)	40(±0)	40(±0)	-	-
	[工業]工業化学(40)	40(±0)	40(±0)	24(▲16)	-	-
	[工業]土木(40)	40(±0)	40(±0)	37(▲3)	-	-
[工業]建築・デザイン(40)	39(▲1)	40(±0)	38(▲2)	-	-	
再編計画策定時の推計*	281	269	261	256	236	252
盛岡市内の中学校卒業生数	2,784	2,750	2,653	2,628	2,431	2,684
盛岡ブロック内の中学校卒業生数	4,584	4,423	4,263	4,175	3,901	4,189

(H31年度盛岡ブロック全日制定員3,235人(盛岡市立高校含む))

オ

紫波総合高校 総合学科5学級 → 4学級						
年度	H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
紫波総合高校の入学者(定員200人)	175(▲25)	157(▲43)	142(▲58)	-	-	-
再編計画策定時の推計*	195	174	176	170	159	166
紫波町内の中学校卒業生数	380	318	320	297	291	282
盛岡ブロック内の中学校卒業生数	4,584	4,423	4,263	4,175	3,901	4,189

(H31年度盛岡ブロック全日制定員3,235人(盛岡市立高校含む))

カ

花北青雲高校 4学級 → 4学級 【延期】 (工業1、商業2、家庭1)							
年度		H29		H30		H31 (2019)	
花北青雲高校の総志願者・入学者 (定員 160 人)		総志願者	入学者	総志願者	入学者	総志願者	入学者
		219(+59)	167(+7)	147(▲13)	143(▲17)	187(+27)	166(+6)
各学科 の入学 者状況	[工業] 情報工学(40)	55(+15)	42(+2)	33(▲7)	31(▲9)	34(▲6)	41(+1)
	[商業] ビジネス情報(80)	107(+27)	84(+4)	72(▲8)	70(▲10)	110(+30)	84(+4)
	[家庭] 総合生活(40)	57(+17)	41(+1)	42(+2)	42(+2)	43(+3)	41(+1)
再編計画策定時の推計*		160		151		155	
花巻市内の中学校卒業生数		915		875		899	
岩手中部ブロック内の中学校卒業生数		1,939		1,771		1,879	

(H31年度岩手中部ブロック全日制定員 1,520人)

キ

北上翔南高校 総合学科6学級 → 5学級						
年度	H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
北上翔南高校の入学者(定員 240人)	212(▲28)	238(▲2)	219(▲21)	-	-	-
再編計画策定時の推計*	240	216	236	216	211	214
北上市内の中学校卒業生数	986	857	956	851	835	825
岩手中部ブロック内の中学校卒業生数	1,939	1,771	1,879	1,754	1,690	1,669

(H31年度岩手中部ブロック全日制定員 1,520人)

ク

一関第一高校 普通科・理数科6学級 → 5学級						
年度	H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
一関第一高校の入学者(定員 240人)	241(+1)	243(+3)	237(▲3)	-	-	-
再編計画策定時の推計*	219	227	221	200	203	202
一関市内の中学校卒業生数	1,080	1,107	1,104	1,014	1,012	990
両磐ブロック内の中学校卒業生数	1,143	1,161	1,164	1,084	1,075	1,057

(H31年度両磐ブロック全日制定員 960人)

ケ

一関工業高校 4学級 → 3学級 (学科改編)						
「電気」と「電子」の両方を学ぶことができるよう改編						
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> [工] 電気科 [工] 電子科 [工] 電子機械科 [工] 土木科 </div> <div style="font-size: 2em;">⇒</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> [工] 電気電子科 [工] 電子機械科 [工] 土木科 </div> </div>						
年度	H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
一関工業高校の入学者(定員 160人)	119(▲41)	151(▲9)	125(▲35)	-	-	-
各学科 の入学 者状況	[工業] 電気(40)	27(▲13)	37(▲3)	24(▲16)	-	-
	[工業] 電子(40)	30(▲10)	39(▲1)	32(▲8)	-	-
	[工業] 電子機械(40)	33(▲7)	38(▲2)	40(±0)	-	-
	[工業] 土木(40)	29(▲11)	37(▲3)	29(▲11)	-	-
再編計画策定時の推計*	135	140	138	124	126	125
一関市内の中学校卒業生数	1,080	1,107	1,104	1,014	1,012	990
両磐ブロック内の中学校卒業生数	1,143	1,161	1,164	1,084	1,075	1,057

(H31年度両磐ブロック全日制定員 960人)

コ

高田高校 5学級 → 4学級 (普通4 → 普通3、水産1 → 水産1)							
年度		H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
高田高校の入学者(定員200人)		144(▲56)	120(▲80)	130(▲70)	-	-	-
各学科の入学 者状況	普通(160)	132(▲28)	111(▲49)	124(▲36)	-	-	-
	[水産] 海洋システム(40)	12(▲28)	9(▲31)	6(▲34)	-	-	-
再編計画策定時の推計*		152	137	141	127	120	112
陸前高田市内の中学校卒業生数		184	169	173	149	136	131
気仙ブロック内の中学校卒業生数		556	505	499	467	438	415

(H31年度気仙ブロック全日制定員560人)

サ

釜石高校 普通科・理数科5学級 → 4学級							
年度		H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
釜石高校の入学者(定員200人)		160(▲40)	153(▲47)	176(▲24)	-	-	-
再編計画策定時の推計*		161	146	150	135	140	127
釜石市内の中学校卒業生数		280	255	266	235	243	213
釜石・遠野ブロック内の中学校卒業生数		624	577	572	527	519	532

(H31年度釜石・遠野ブロック全日制定員640人)

シ

宮古高校 普通科6学級 → 5学級							
年度		H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
宮古高校の入学者(定員240人)		205(▲35)	214(▲26)	185(▲55)	-	-	-
再編計画策定時の推計*		211	209	193	170	175	173
宮古市内の中学校卒業生数		477	473	428	383	383	382
宮古ブロック内の中学校卒業生数		750	733	652	574	580	553

(H31年度宮古ブロック全日制定員800人)

ス

一戸高校 総合学科3学級 → 3学級 【延期】							
年度		H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
一戸高校の入学者(定員120人)		100(▲20)	83(▲37)	96(▲24)	-	-	-
再編計画策定時の推計*		102	90	86	84	81	87
一戸町内の中学校卒業生数		112	85	84	82	89	83
二戸ブロック内の中学校卒業生数		495	450	430	419	398	416

(H31年度二戸ブロック全日制定員480人)

(2) 再編計画において計画していた学級減を延期している学校について

ア

葛巻高校 普通科2学級 → 2学級 【延期】							
年度		H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
葛巻高校の入学者(定員80人)		51(▲29)	46(▲34)	41(▲39)	-	-	-
再編計画策定時の推計*		35	39	30	29	37	27
葛巻町内の中学校卒業生数		40	45	34	30	41	28

(H31年度盛岡ブロック全日制定員3,235人(盛岡市立高校含む))

イ

花巻南高校 普通科5学級 → 5学級 【延期】							
年度		H29		H30		H31(2019)	
花巻南高校の総志願者・入学者 (定員 200 人)		総志願者	入学者	総志願者	入学者	総志願者	入学者
		205(+ 5)	200(±0)	231(+31)	203(+ 3)	240(+40)	201(+ 1)
各学系 の入学 者状況	人文・自然科学 (120)	140(+20)	122(+ 2)	151(+31)	123(+ 3)	158(+38)	122(+ 2)
	スポーツ健康科学 (40)	34(▲6)	38(▲2)	40(±0)	40(±0)	36(▲4)	39(▲1)
	国際科学 (40)	31(▲9)	40(±0)	40(±0)	40(±0)	46(+ 6)	40(±0)
再編計画策定時の推計*		188		178		185	
花巻市内の中学校卒業生数		915		875		899	
岩手中部ブロック内の中学校卒業生		1,939		1,771		1,879	

(H31 年度岩手中部ブロック全日制定員 1,520 人)

ウ

水沢工業高校 4学級 → 4学級 【延期】 (工業4)							
年度		H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
水沢工業高校の入学者(定員 160 人)		134(▲26)	157(▲3)	155(▲5)	-	-	-
各学科 の入学 者状況	[工業] 機 械 (40)	35(▲ 5)	40(±0)	35(▲5)	-	-	-
	[工業] 電 気 (40)	26(▲14)	37(▲3)	40(±0)	-	-	-
	[工業] 設備システム (40)	35(▲ 5)	40(±0)	40(±0)	-	-	-
	[工業] インテリア (40)	38(▲ 2)	40(±0)	40(±0)	-	-	-
再編計画策定時の推計*		148	145	140	142	127	134
奥州市内の中学校卒業生数		1,097	1,078	1,016	1,021	910	979
胆江ブロック内の中学校卒業生		1,254	1,230	1,166	1,174	1,045	1,117

(H31 年度胆江ブロックの全日制定員 960 人)

エ

前 沢 高 校 普通科2学級 → 2学級 【延期】							
年度		H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
前沢高校の入学者(定員 80 人)		41(▲39)	59(▲21)	53(▲27)	-	-	-
再編計画策定時の推計*		54	52	52	53	50	49
前沢中学校卒業生数		124	115	118	121	112	105

(H31 年度胆江ブロックの全日制定員 960 人)

オ

山 田 高 校 普通科2学級 → 1学級							
年度		H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
山田高校の入学者(定員 80 人)		27(▲53)	52(▲28)	31(▲49)	-	-	-
再編計画策定時の推計*		45	45	39	34	34	31
山田町内の中学校卒業生数		152	151	126	111	107	98

(H31 年度宮古ブロック全日制定員 800 人)

カ

盛岡工業高校(定時制課程) 募集停止を延期					
年度	H27	H28	H29	H30	H31(2019)
定時制の入学者(定員 40 人)	6	4	4	7	8
定時制の在籍者(1~4年)	11	13	14	19	22

(3) 管理運営規則に基づく学級数調整について

金ヶ崎高校 普通科3学級 → 2学級						
年度	H29	H30	H31(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
金ヶ崎高校の入学者(定員120人)	91(▲29)	75(▲45)	58(▲62)	-	-	-
再編計画策定時の推計*	115	112	109	110	98	104
金ヶ崎中学校卒業生数	157	152	150	153	135	138
胆江ブロック内の中学校卒業生数	1,254	1,230	1,166	1,174	1,045	1,117

(H31年度胆江ブロックの全日制定員 960人)

【参考】

宮古商工高校 5学級 (工業2、商業3)		[工] 機械システム科	[商] 総合ビジネス科
		[工] 電気システム科	[商] 流通ビジネス科
			[商] 情報ビジネス科

年度		H29	H30	H31(2019)
宮古工業高校の入学者(定員120人)		64(▲56)	56(▲64)	68(▲52)
各学科 の入学 者状況	[工業] 機 械 (40)	29(▲11)	23(▲17)	18(▲22)
	[工業] 電 気 電 子 (40)	17(▲23)	19(▲21)	27(▲13)
	[工業] 建 築 設 備 (40)	18(▲22)	14(▲26)	23(▲17)

年度		H29	H30	H31(2019)
宮古商業高校の入学者(定員160人)		146(▲14)	133(▲27)	122(▲38)
各学科 の入学 者状況	[商業] 商 業 (40)	39(▲1)	40(±0)	40(±0)
	[商業] 会 計 (40)	28(▲12)	21(▲19)	16(▲24)
	[商業] 情 報 (40)	39(▲1)	32(▲8)	37(▲3)
	[商業] 流 通 経 済 (40)	40(±0)	40(±0)	29(▲11)

5 今後のスケジュール

- 9月県議会定例会において、新たな学科の設置、宮古商業高校と宮古工業高校の統合校の設置に係る県立学校設置条例の一部改正を提案（一関工業高校の学科改編及び宮古商工高校（仮称）の設置）。
- 条例改正後（10月）、教育委員会定例会において、新たな学科の設置、学級数の変更を内容とする管理運営規則の一部改正案を審議、決定。
- 令和2年度（2020年度）岩手県立高等学校入学選抜実施要項を決定（10月）。

《 参 考 》

1 前期再編プログラム総括表

計画期間(H28～H32 5年間)					
タイプ 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
専門高校					
総合的な 専門高校					宮古商業 宮古工業
普通科 専門 学 科 併 置 校					遠野 遠野緑峰
総合学科 専門学 科 併 置 高 校					久慈東 久慈工業
普通高校		※ 表外(2)のとおり			
学科改編 コース等見直し (学級減)			西和賀 水沢農業 一関第二 釜石商工	平舘 花巻南 水沢工業 大船渡東 宮古水産	不来方 盛岡工業 紫波総合 花北青雲 北上翔南 一関工業 一戸
学級減		大槌 伊保内	葛巻 大船渡 種市	盛岡第四 前沢 大東 山田 大野 久慈 福岡	盛岡第三 盛岡北 一関第一 高田 釜石 宮古
全日制学校数	63	63	63	63	60
全日制学級数	255	253	245	233	216
(定時制)			宮古ブロック	盛岡ブロック	

- (1) 統合予定校では、地方創生に向けたそれぞれの地域の取組の推移や、平成 30 年度までの入学者の状況等の検証を行い、統合時期等について検討します。
- (2) 1 学年 1 学級の普通高校では、直近の入学者数が 2 年連続して 20 人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合します。
- (3) 学科改編、学級減等は、原則として再編計画に基づき実施しますが、ブロック内の中学校卒業予定者数や、各校の定員充足状況等に大きな変化があった場合には、実施時期等の変更も検討します。

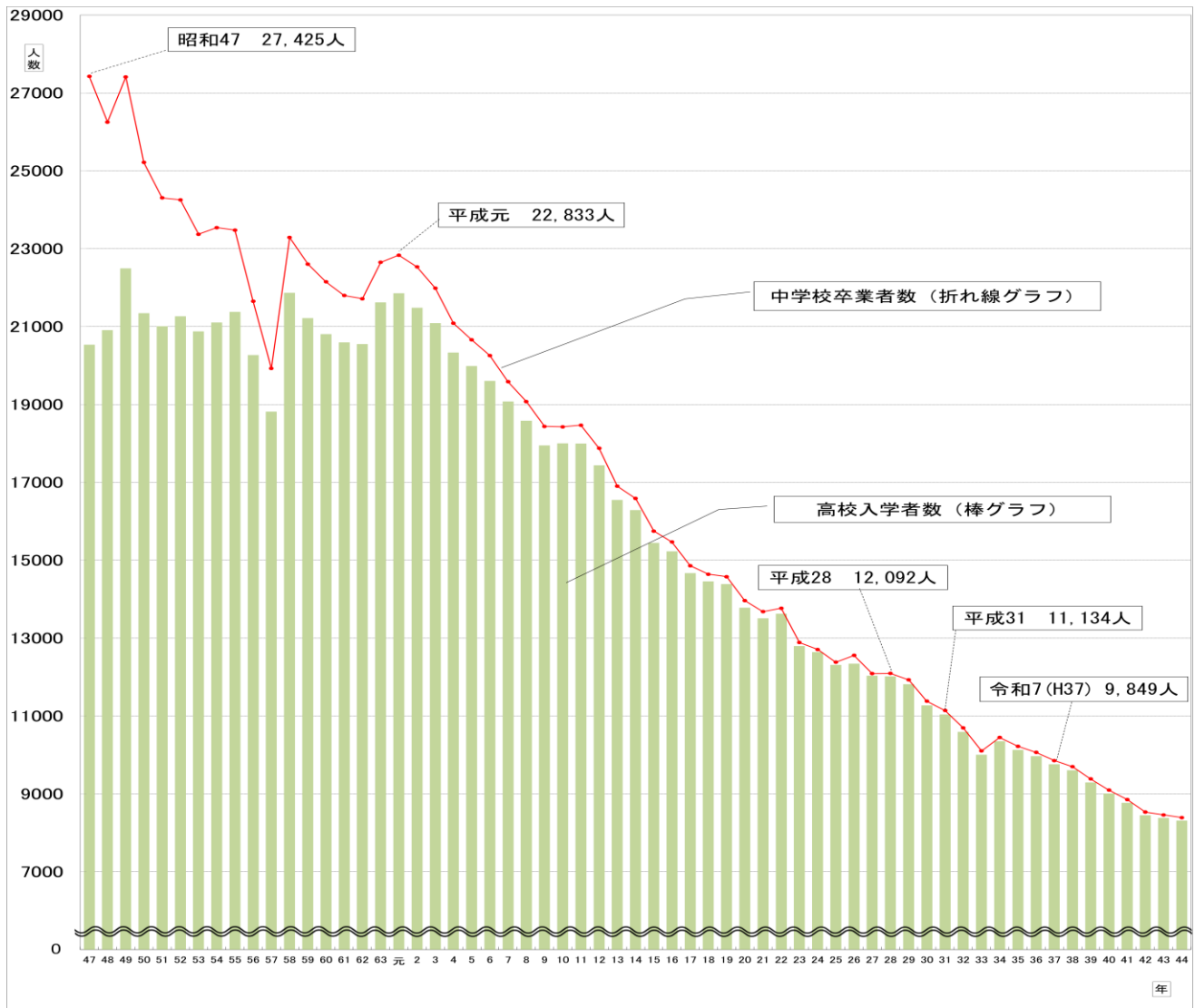
2 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則（抄）

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則（抄）

第 3 条 （略）

- 2 入学志願者の数が、生徒の募集に関する人員に満たない場合で、その不足する数が 1 学級の収容定員以上であるときは、別表第 1 から別表第 3 までに掲げる学級数を減ずることがある。

岩手県における中学校卒業生数及び高校入学者数の推移



各年ごとのデータ

年3月	昭和47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62
中学校卒業生数	27,425	26,250	27,412	25,216	24,304	24,254	23,370	23,542	23,478	21,647	19,923	23,289	22,605	22,148	21,797	21,715
進学率	74.9%	79.6%	82.0%	84.6%	86.4%	87.6%	89.3%	89.6%	91.0%	93.6%	94.4%	93.9%	93.8%	93.9%	94.5%	94.6%
高校入学者数	20,529	20,904	22,486	21,339	21,004	21,257	20,867	21,101	21,371	20,262	18,812	21,860	21,208	20,801	20,590	20,543
年3月	63	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
中学校卒業生数	22,648	22,833	22,531	21,985	21,085	20,657	20,256	19,583	19,074	18,435	18,425	18,468	17,874	16,899	16,585	15,748
進学率	95.4%	95.7%	95.3%	95.9%	96.4%	96.7%	96.7%	97.4%	97.4%	97.3%	97.7%	97.4%	97.5%	97.9%	98.2%	98.0%
高校入学者数	21,617	21,847	21,475	21,084	20,329	19,983	19,595	19,068	18,574	17,941	17,993	17,987	17,432	16,541	16,279	15,440
年3月	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
中学校卒業生数	15,468	14,857	14,640	14,576	13,964	13,678	13,767	12,885	12,708	12,379	12,556	12,088	12,092	11,927	11,379	11,134
進学率	98.4%	98.7%	98.7%	98.7%	98.7%	98.7%	98.9%	99.3%	99.4%	99.4%	99.4%	99.5%	99.3%	99.4%	99.4%	99.5%
高校入学者数	15,223	14,661	14,449	14,383	13,776	13,500	13,620	12,788	12,634	12,306	12,366	12,025	12,010	11,859	11,316	11,074
年3月	令和2(H32)	3(H33)	4(H34)	5(H35)	6(H36)	7(H37)	8(H38)	9(H39)	10(H40)	11(H41)	12(H42)	13(H43)	14(H44)	15(H45)	16(H46)	17(H47)
中学校卒業生数	10,678	10,095	10,404	10,205	10,062	9,849	9,660	9,362	9,233	8,792	8,494	8,446	8,354	7,972		
進学率	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%		
高校入学者数	10,571	9,994	10,300	10,103	9,961	9,751	9,563	9,268	9,141	8,704	8,409	8,362	8,270	7,892		

〈中学校卒業生数〉・昭和47年から平成31年までは実績値、令和2年以降は令和元年5月1日現在の在籍生徒数等からの推定値です。
 〈高校入学者数〉・昭和47年から平成31年までは実績値、令和2年以降は進学率を99.0%に固定し、高校入学者数を計算したものです。